

丸亀市内遺跡発掘調査報告書

第 2 集

平成18年度国庫補助事業報告書

山北町字原窪地区

西坂元内板遺跡

郡家町字地頭・字重元地区

丸亀城跡（大手町地区）

道 下 遺 跡

2007. 3

丸亀市教育委員会

例 言

1. 本書は、丸亀市が平成18年度国庫補助事業として実施した丸亀市内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 今回の遺跡発掘調査は、山北町字原窪地区、飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区、郡家町字地頭・字重元地区大手町地区及び金倉町字道下地区の道下遺跡を対象とした。
3. 調査主体は、丸亀市教育委員会である。
4. 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区、道下遺跡及び山北町字原窪地区の試掘・確認調査は、丸亀市教育委員会近藤武司が、大手町地区及び郡家町字地頭・字重元地区の試掘調査は、同教育委員会東信男が担当して実施した。
5. 出土遺物及び実測図面等の資料整理は、谷口梢、北山多佳子及び高畑裕が行った。
6. 本書の執筆は、近藤、谷口、北山及び高畑が分担して行い、編集は、近藤が行った。
7. 本書の測量図の縮尺は、スケールで表示した。また、方位は世界測地系による方位（北位：T.N.）及び磁北（M.N.）で表示した。
8. 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区、郡家町字地頭・字重元地区及び道下遺跡での調査基準レベルは、各トレンチ配置図のK.B.M.を±0.00mとした。
9. 実測図面は、丸亀市教育委員会に保管している。
10. 調査地の位置を示した挿図については、国土地理院の25,000分の1地形図及び丸亀市が作成した10,000分の1都市計画図を使用した。
11. 本書を作成するにあたり、片桐孝浩、北山健一郎両氏の協力を得た。ここに記して感謝の意を表する。

目 次

本文目次

第Ⅰ章	平成18年度丸亀市内遺跡発掘調査事業概要	1
第Ⅱ章	山北町字原窪地区試掘調査	4
1.	立地と環境	4
2.	調査に至る経緯	4
3.	調査の概要	6
4.	まとめ	12
第Ⅲ章	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区試掘調査	21
1.	立地と環境	21
2.	調査に至る経緯	21
3.	調査の概要	22
4.	まとめ	30
第Ⅳ章	郡家町字地頭・字重元地区試掘調査	41
1.	立地と環境	41
2.	調査に至る経緯	41
3.	調査の概要	42
4.	まとめ	42
第Ⅴ章	大手町地区試掘調査	45
1.	立地と環境	45
2.	調査に至る経緯	45
3.	調査の概要	47
4.	まとめ	47
第Ⅵ章	道下遺跡確認調査	50
1.	立地と環境	50
2.	調査に至る経緯	50
3.	A地区調査の概要	51
4.	まとめ	53
5.	B地区調査の概要	58
6.	まとめ	59
7.	C地区調査の概要	62
8.	まとめ	63
第Ⅶ章	まとめ	66

挿図目次

第1図	平成18年度丸亀市内遺跡発掘調査事業対象地	3
山北町字原窪地区		
第2図	調査位置図	4
第3図	トレンチ配置図	5
第4図	1次調査 トレンチ平面・土層断面図	8
第5図	1次調査 遺物実測図	9
第6図	2次調査 トレンチ平面・土層断面図	11
飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区【西坂元内板遺跡】		
第7図	調査位置図	21
第8図	トレンチ配置図・旧地形予想復元図	23
第9図	トレンチ平面・土層断面図(1)	26
第10図	トレンチ平面・土層断面図(2)	27
第11図	遺物実測図(1)	28
第12図	遺物実測図(2)	29
郡家町字地頭・字重元地区		
第13図	調査位置図	41
第14図	トレンチ配置図	43
第15図	1トレンチ北壁土層断面図	43
大手町地区【丸亀城跡(大手町地区)】		
第16図	調査位置図	45
第17図	トレンチ配置図	46
第18図	3トレンチ西壁土層断面図	46
第19図	4トレンチ西壁土層断面図	46
第20図	4トレンチ石列出土状況平面図	46
金倉町字道下地区【道下遺跡】		
第21図	調査位置図	50
第22図	A地区トレンチ配置図	51
第23図	トレンチ土層断面図	52
第24図	8トレンチ北壁土層断面図	53
第25図	B地区トレンチ配置図	58
第26図	トレンチ土層断面図	59
第27図	C地区トレンチ配置図	62
第28図	トレンチ土層断面図	63

表目次

第 1 表	山北町字原窪地区 1 次調査 トレンチ概要	7
第 2 表	山北町字原窪地区 2 次調査 トレンチ概要	10
第 3 表	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 トレンチ概要	25

図版目次

図版 1	山北町字原窪地区 1 次調査 (1)	13
図版 2	山北町字原窪地区 1 次調査 (2)	14
図版 3	山北町字原窪地区 1 次調査 (3)	15
図版 4	山北町字原窪地区 1 次調査 (4)	16
図版 5	山北町字原窪地区 2 次調査 (1)	17
図版 6	山北町字原窪地区 2 次調査 (2)	18
図版 7	山北町字原窪地区 2 次調査 (3)	19
図版 8	山北町字原窪地区 2 次調査 (4)	20
図版 9	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (1)	31
図版 10	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (2)	32
図版 11	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (3)	33
図版 12	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (4)	34
図版 13	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (5)	35
図版 14	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (6)	36
図版 15	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (7)	37
図版 16	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (8)	38
図版 17	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (9)	39
図版 18	飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 (10)	40
図版 19	郡家町字地頭・字重元地区 (1)	44
図版 20	大手町地区 (1)	48
図版 21	大手町地区 (2)	49
図版 22	道下遺跡 A 地区 (1)	54
図版 23	道下遺跡 A 地区 (2)	55
図版 24	道下遺跡 A 地区 (3)	56
図版 25	道下遺跡 A 地区 (4)	57
図版 26	道下遺跡 B 地区 (1)	60
図版 27	道下遺跡 B 地区 (2)	61
図版 28	道下遺跡 C 地区 (1)	64
図版 29	道下遺跡 C 地区 (2)	65

第 I 章 平成 18 年度丸亀市内遺跡発掘調査事業概要

平成 17 年 3 月 22 日に旧丸亀市、旧綾歌町、旧飯山町が合併し新しい丸亀市が誕生した。丸亀市内には、現在、約 400 箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地が登録されており、その内容からも古くは旧石器時代から先人の足跡が見られる。

このような背景の中、市内の各地で大小規模の開発が活発に計画されており、その対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地内やそれに隣接する場所である場合、地形や周辺の遺跡分布状況から検討すると遺跡の所在する可能性の考えられる地区である場合がある。

これらのような場合には、丸亀市では埋蔵文化財の適切な保護を図るため、試掘及び確認調査実施し、遺跡の所在の有無及びその内容について確認するため、国庫及び県費補助金をあてて調査を実施してきている。今年度についても、県費の割り当てはないが、国庫補助金をあてて同事業を継続して実施することとした。

国庫補助申請については、平成 18 年 4 月 4 日付け 18 文文第 15 号で提出し、平成 18 年 6 月 1 日付け 18 教文第 6775 号で交付決定を受けた。また、平成 19 年 1 月 9 日付け 18 文文第 352 号で変更承認申請を提出し、平成 19 年 2 月 16 日付け 18 教文第 23027 号で交付決定を受けた。

今年度については、山北町字原窪地区、飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区、大手町地区及び郡家町字地頭・字重元地区で遺跡の所在の有無を確認するための試掘調査を、金倉町字道下地区に所在する道下遺跡内での確認調査を実施した。

山北町字原窪地区では、大規模商業施設の建設が計画され、埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会文書が 2 度に分けて提出された。当該地付近には中世城館跡や旧街道の所在があることから、計画に伴い、それぞれの回答をするための試掘調査を実施した。

飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区でも大規模商業施設の建設が計画されたことに伴う試掘調査を実施した。近接する高地には弥生時代の集落遺構が確認されていることや、古墳の所在も知られていることから、関連する遺跡の展開が考えられるということから実施に踏み切ったものである。

大手町地区では、丸亀市の計画する消防庁舎建設事業に伴い実施したもので、かつて丸亀城下家老屋敷が所在していたとされることから、その残存状況を確認するために試掘調査を行った。

郡家町字地頭・字重元地区では、公立小学校の校舎増築事業が計画されたことに伴うもので、未確認となっている郡衙跡の所在を探るために実施したものである。

道下遺跡では、住宅開発が 3 件計画されたことに伴うものである。周知の埋蔵文化財包蔵地としては道下遺跡として登録されているが、その詳細については不明な点が多く、各開発に先立ち確認調査を実施しているものである。

これらの 8 件の調査を実施した結果、飯山町西坂元字内板地区で西坂元内板遺跡、大手町地区で丸亀城跡（大手町地区）の 2 遺跡を新たに発見することができた。また、道下遺跡では、1 地区において遺構を検出することができた。

その他の調査では、埋蔵文化財の所在が確認できなかったこと、検出内容が極めて

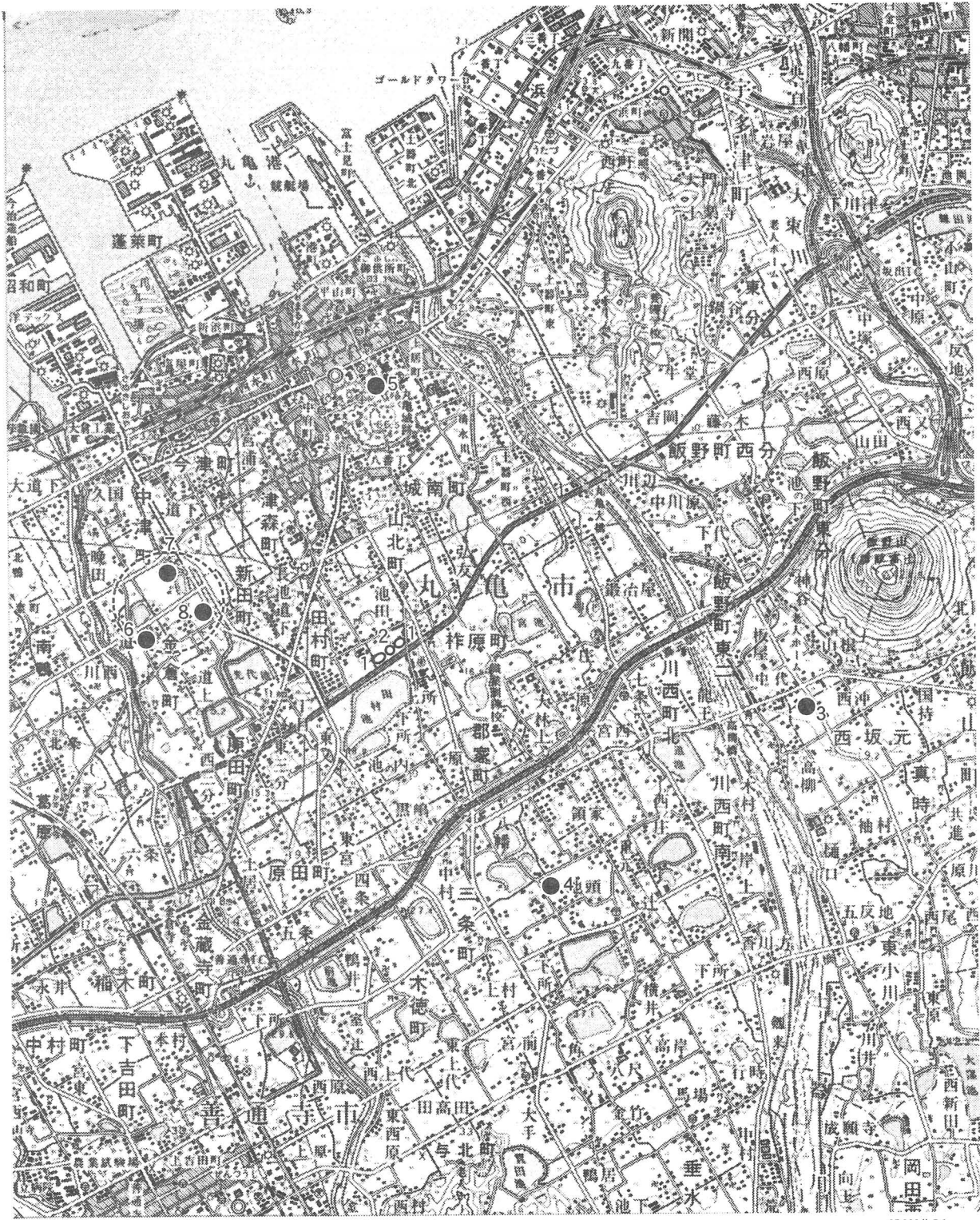
希薄であることから遺跡としての認定を受けることができなかった。

これらの調査によって得られた資料に基づき、それぞれ開発事業者と埋蔵文化財の保存について協議し、適切な保護を図った。

また、今後計画される開発等にもこれらの成果を反映し文化財の保護に役立てたい。

以上、丸亀市内で計画された8件の事業にともなう試掘調査及び確認調査を実施した。

平成18年度の丸亀市内遺跡発掘調査事業は、平成18年4月1日から実施し、平成19年3月30日に終了した。



- | | | |
|------------------------------|-----------------|--------------|
| 1. 山北町字原窪地区(1次) | 4. 郡家町字地頭・字重元地区 | 7. 道下遺跡(B地区) |
| 2. 山北町字原窪地区(2次) | 5. 大手町地区 | 8. 道下遺跡(C地区) |
| 3. 飯山町西坂元字内板地区
飯野町東二字中代地区 | 6. 道下遺跡(A地区) | |

第1図 平成18年度丸亀市内遺跡発掘調査対象地

山北町字原窪地区

第Ⅱ章 山北町字原窪地区試掘調査

1次調査（A・B地区）

調査対象地 山北町字原窪85-1、104-1、105、106、
107-1、107-2、108-1、113-1
調査期間 平成18年4月17日～4月19日
調査面積 114.5㎡

2次調査（C地区）

調査対象地 丸亀市山北町字原窪67-1、68-1、72-3、
73-1、74-1、75-1、76、77、78、
79-1、80、81、97-1
調査期間 平成18年6月27日～6月29日
調査面積 143㎡

1. 立地と環境

飯野山西側に広がる丸亀平野は、土器川と金倉川に挟まれた扇状地である。

調査対象地は、田村池の北側で古くから池ノ下、原窪という地名で呼ばれている地域で、一帯は南から北に下る周辺より一段低い状況であったことが推定される。

また、計画地は幹線道路である国道11号線の北側、城南小学校の西側一帯で、付近には、北側に中世城館である田村城跡、東側に古代の柞原町西村遺跡、南側に弥生から古代にかけての田村池遺跡、中世城館の柞原町土居構城跡などが確認されている。

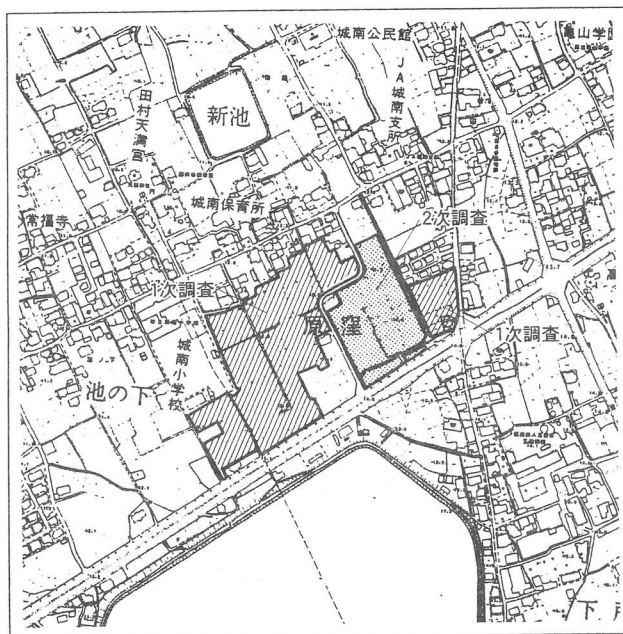
また、区域内では、一辺100m程の方形地割も認められる。

更に、東側では旧金毘羅街道が通る交通の要所でもあることから、計画地内にもこれらに関連する遺跡の所在が予想される。

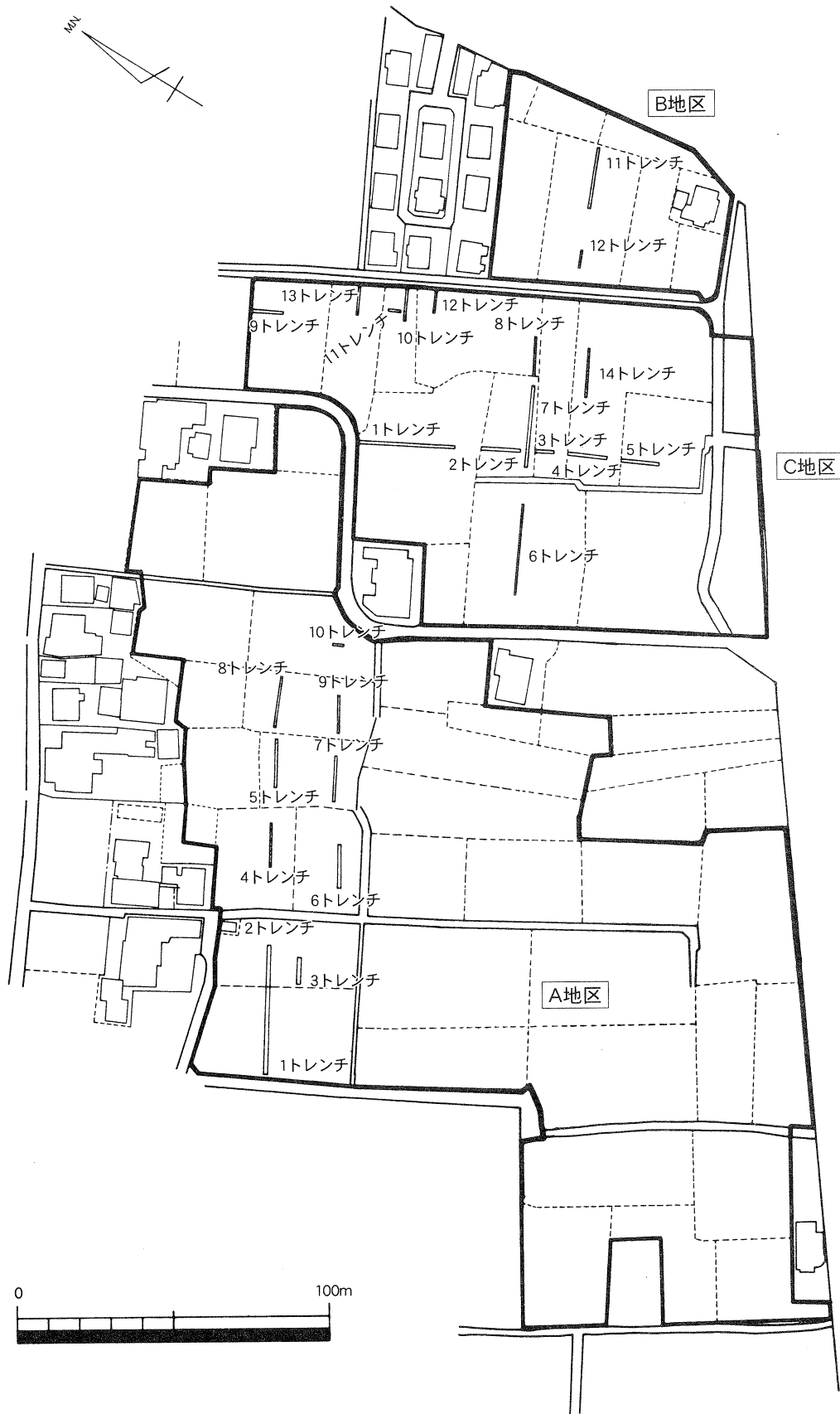
近年では、四国横断自動車道建設に伴う発掘調査によって竜川五条遺跡、旧石器時代の三条黒島遺跡、郡家原遺跡、郡家一里家遺跡、郡家大林上遺跡、郡家田代遺跡と丸亀平野における歴史が明らかになりつつある。

2. 調査に至る経緯

山北町字原窪地区における商業施設建設が計画された。これに伴い、事業者から遺跡の包蔵状況についての照会文書が平成18年3月9日付け及び平成18年6月9日付けで提



第2図 調査位置図



第3図 トレンチ配置図

出された。

市教育委員会には当該地の埋蔵文化財包蔵状況の資料が整っていないことから、早急に体制を整えると共に試掘調査を実施する準備を進めた。調査は、前者を1次、後者を2次調査とし2回に分けて実施した。

1次調査は、平成18年4月17日から開始し、平成18年4月19日終了した。調査方法は、城南小学校東側に広がるA地区と東方のB地区共にトレンチ調査で実施した。

2次調査は、平成18年6月27日より開始し、平成18年6月29日終了した。

また、1次調査をA、B地区としたため、2次調査での調査区はC地区とした。

1次、2次調査共にトレンチ掘削は重機で行い、トレンチ内精査は人力で行った。

3. 調査の概要

1次調査

1次調査はA地区、B地区が対象地で、A地区に1～10トレンチを、B地区に11、12トレンチを設定した。

1～4トレンチでは表土から少し深く掘り下げると粗砂層となり湧水が激しくなる。この北方には、小さな池が昭和初期まであったようで、水が得やすく旧流路域であった可能性が高いと考えられる。

1トレンチでは、西側において耕作土直下から安定した地山層が続き、西から7m付近において地山層に伴うと考えられる深さ30cm程度の南北溝を検出した。この地山層は調査状況から道路状遺構とも考えられ、溝跡はそれに伴う可能性がある。

また、土壌が検出されており、壁面や底面に焼土が認められることから何らかの焼成が行われていたと考えられる。

1トレンチからは遺物1と2が出土している。これらは、包含層から出土したもので全て破片であった。遺物1は須恵器の壺の口縁である。口縁端部はナデ調整され丸みを帯びた面を持つ。遺物2は軟質の須恵器の坏である。口縁部に煤の付着がみられ緩やかに外反する。

2トレンチの土層序を見ると、現代の水田面に伴う床土層の下には遺構面と考えられる面まで数層見られるが、これらの面に遺構は見られなかった。

ベース面において南北方向の溝跡を2条検出した。溝については、湧水が激しく完掘後程なく水没する状況であり、田村池方向から流れていた旧流路域と考えられる。

3トレンチは、2トレンチとほぼ同じ状況であるが2トレンチで検出した東側の溝跡とつながる溝が確認された。西側の溝に続く遺構は確認できなかった。

4トレンチは、床土層直下が遺構面と考えられる。西端付近において南北方向の幅20cmほどの細い溝を確認した。遺物は第5層から遺物3の須恵器底部が出土している。厚みを持つ高台で台付壺の可能性が考えられる。

5トレンチでは、床土層の面でピットを検出できたのみである。遺物は遺物4～7が出土した。遺物4は唐津の高台を持つ碗で、底径3.8cmを測る。遺物5は、19世紀の唐津の皿である。口縁部は外反しながら丸く立ち上がる。遺物6は京焼きの碗片、遺物7は陶器口縁部である。直立気味に立ち上がり、返りを持つ。

6トレンチでは、現状から深さ30cmで地山層が認められる。遺構等は認められなかつ

た。

7トレンチでは、現状から30cm下の位置でピットを検出した。出土した遺物8は土師器で甕口縁片である。

8トレンチでは、床土層の下30cmの層位で東側にピットを確認した。遺物は含んでいない。

9トレンチでは、床土層の下30cmの層位で西側にピットを確認した。5層より遺物9～11が出土した。遺物9は土師器碗底部。調整は摩滅のため不明。遺物10は羽釜である。鏝下を指で抑えて調整し内面には刷毛目がのこる。遺物11は12世紀の土師器の坏である。調整は摩滅して不明。底部に板状圧痕が残る。

10トレンチは、シルト質細砂層が厚く堆積しており、遺構等は認められなかった。

11トレンチでは、耕作土層直下にシルト質細砂層が薄く認められるが、その下層は3～5cm大の円礫を多量に含む粗砂層が認められ、旧流路域であったと考えられる。

12トレンチでは、トレンチ西側において11トレンチと同様円礫を含む粗砂層が認められた。

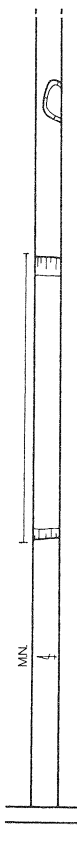
トレンチ名	延長(m)	主な時代	主な遺構	出土遺物等
第1トレンチ	28.0	古代、中世	溝・道路(?), 土壌	土師器、須恵器
第2トレンチ	13.0	古代、中世 近世	ピット、溝	土師器、須恵器、陶磁器
第3トレンチ	8.5	古代	溝	須恵器
第4トレンチ	14.0	古代、中世	溝	土師器、須恵器
第5トレンチ	16.0	古代、中世 近世	ピット	土師器、須恵器、陶磁器
第6トレンチ	14.0	近世	無し	土師器、陶磁器
第7トレンチ	15.0	中世、近世	ピット	土師器、須恵器、陶磁器
第8トレンチ	13.0	古代、中世	ピット	土師器、須恵器
第9トレンチ	11.2	中世、近世	ピット	土師器、陶磁器
第10トレンチ	3.9	不明	無し	無し
第11トレンチ	20.0	不明	無し	無し
第12トレンチ	6.0	不明	無し	無し

第1表 山北町字原窪地区1次調査 トレンチ概要

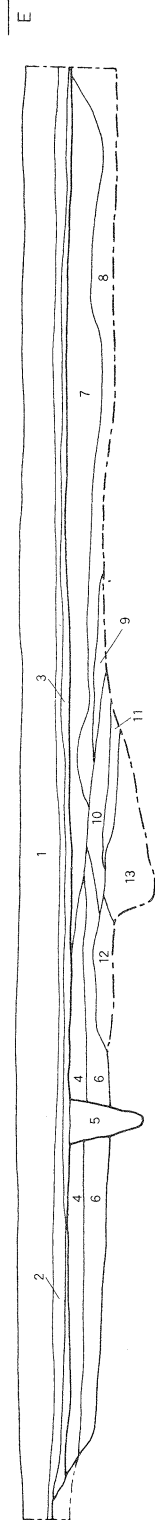
1. 耕作土
2. 10YR5/3にふい黄褐色シルト
3. 床土
4. 10YR5/1褐色シルト
5. 10YR6/1褐色シルト
6. 10YR6/1褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト混じり
7. 2.5Y6/4にふい黄色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト混じり
8. 2.5Y6/4にふい黄色シルト+2.5Y7/4褐色シルト混じり
9. 10YR5/1褐色シルト
10. 2.5Y5/1黄褐色シルト
11. 2.5Y6/1黄褐色シルト+2.5Y7/6明黄褐色シルト混じり
12. 10YR6/8明黄褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト混じり
13. 10YR6/1褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト
14. 10YR6/1褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト+10YR7/1灰白色(10YR6/8明黄褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト)

1. 耕作土
2. 10YR5/3にふい黄褐色シルト
3. 床土
4. 10YR5/1褐色シルト
5. 10YR6/1褐色シルト
6. 10YR6/1褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト混じり
7. 2.5Y6/4にふい黄色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト混じり
8. 2.5Y6/4にふい黄色シルト+2.5Y7/4褐色シルト混じり
9. 10YR5/1褐色シルト
10. 2.5Y5/1黄褐色シルト

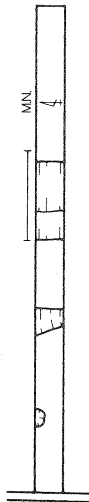
1トレンチ



L=12.00
W



E

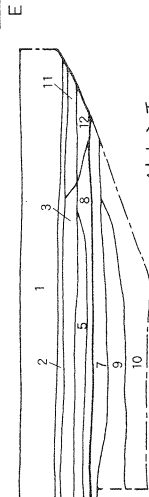
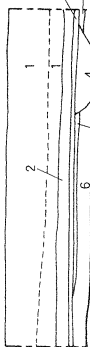


L=12.00
W

E 2トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/4褐色シルト質細砂混じり粗砂混じり(10YR6/1褐色シルト質)
3. 10YR5/6黄褐色シルト質細砂混じり(10YR6/1褐色シルト質)
4. 2.5Y6/1黄褐色シルト質細砂混じり
5. 2.5YR6/4黄褐色シルト質細砂
6. 7より10YR6/8明黄褐色少し強い
7. 8より10YR6/8明黄褐色少し強い
8. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂混じり
9. 2.5YR6/1黄褐色シルト質細砂(3~5cm次の小石混じり)

L=12.00
W

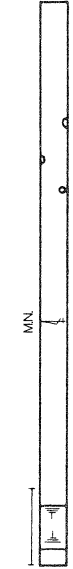


E

4トレンチ

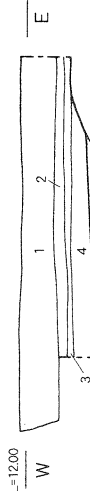
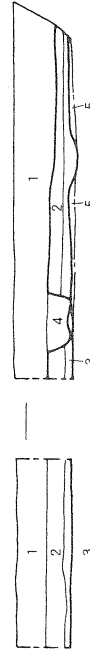
1. 耕作土
2. (床土)10YR7/8黄褐色シルト質細砂混じり
3. 10YR6/1褐色シルト質細砂
4. 10YR6/1褐色シルト質細砂混じり
5. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂
6. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂少混じり
7. 10YR6/1褐色シルト質細砂
8. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂
9. 5に粗砂を含む
10. 10YR6/1褐色シルト質細砂
11. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂
12. 2.5Y7/1灰白色シルト質細砂

L=12.00
W



E

L=12.00
W



E

5トレンチ

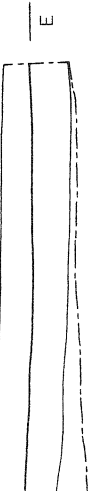
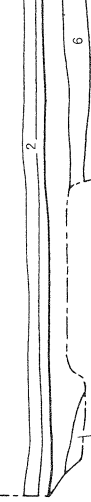
1. 耕作土
2. (床土)10YR7/8黄褐色シルト質細砂混じり10YR6/1褐色シルト質細砂
3. 10YR6/1褐色シルト質細砂混じり10YR6/8明黄褐色シルト質細砂
4. 2.5Y5/1黄褐色シルト質細砂
5. (地山)10YR6/1褐色シルト質細砂混じり10YR6/6明黄褐色シルト質細砂

7トレンチ

1. 耕作土
2. (床土)10YR7/8黄褐色シルト質細砂混じり10YR6/1褐色シルト質細砂
3. 10YR7/1灰白色シルト質細砂混じり10YR6/6明黄褐色シルト質細砂
4. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂少混じり
5. (地山)10YR7/1灰白色シルト質細砂混じり10YR6/6明黄褐色シルト質細砂少混じり

L=12.00
W

L=12.00
W



E

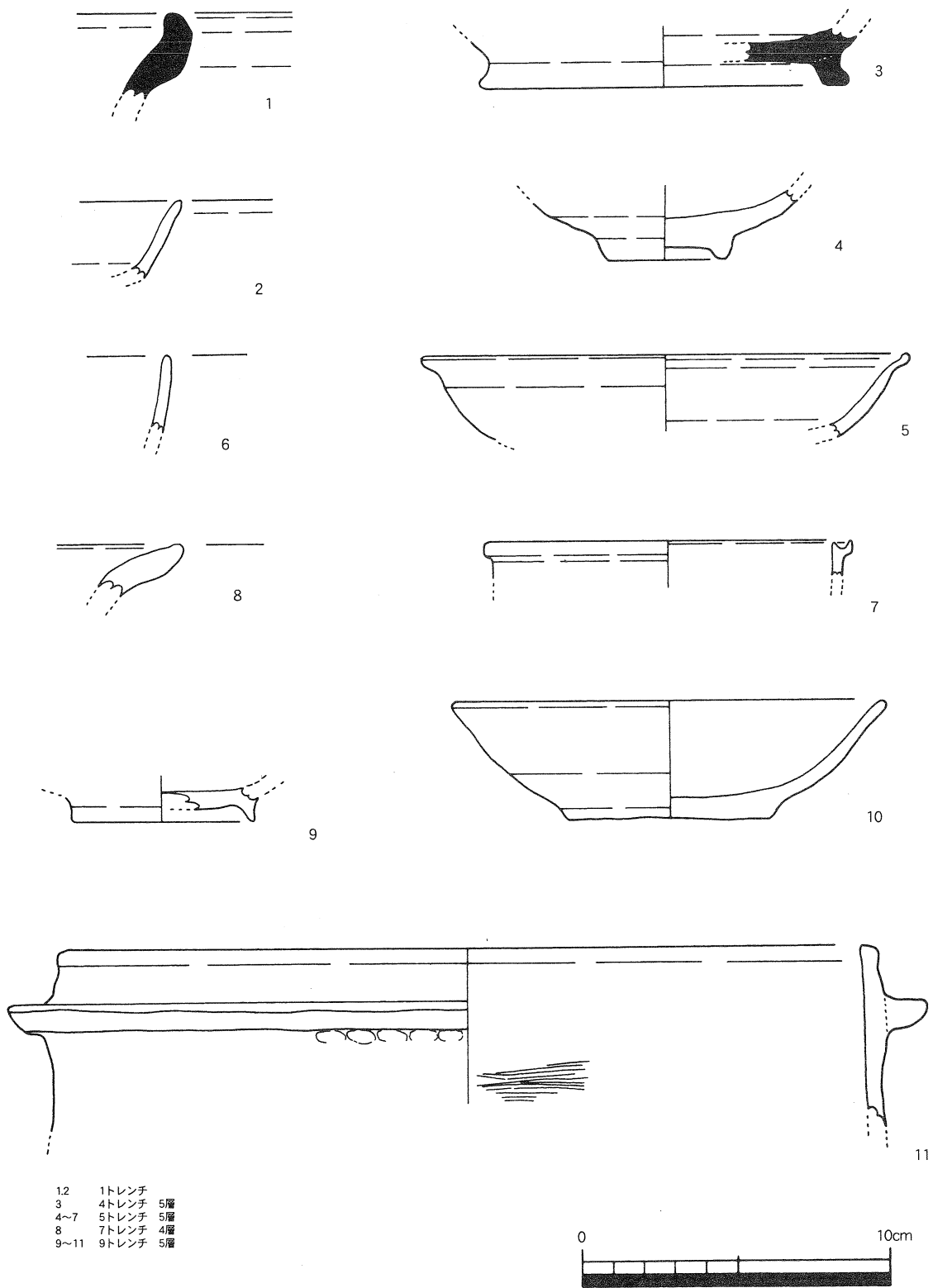
9トレンチ

1. 耕作土
2. (床土)10YR6/6明黄褐色シルト質細砂少混じり
3. 10YR6/1褐色シルト質細砂
4. 10YR6/1褐色シルト質細砂
5. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂
6. 10YR6/8明黄褐色シルト質細砂少混じり
7. 10YR6/1褐色シルト質細砂(灰白色含む)
8. 10YR6/1褐色シルト質細砂(灰白色含む)
9. (7と8の中間色)より10YR6/6明黄褐色少混じり

0 100m

0 2m

第4図 1次調査 トレンチ平面・土層断面図



第5図 1次調査 遺物実測図

2次調査

2次調査は、C地区を対象とした。調査区全体に14本のトレンチを設定し調査した。各トレンチ共に遺物は認められなかった。

1～3トレンチは、ほぼ同じ状況で現状地盤より30cmほど下層において湧水が認められる。黒色土層が全域で確認できたが、溝の埋土というよりも湿地帯により形成された腐食土層と考えられる。

4トレンチでは、南端付近で5cm大の砂岩製円礫が少々混じる層が認められた。

5～6トレンチでは、耕作土下に安定したシルト質の堆積層が認められた。

7トレンチでは、1トレンチ等で見られた黒色土層が見られた。中央部付近では、周囲より一段低い状況が確認された。

8トレンチでは南北方向の溝3条と川跡が確認された。SD01は幅70cm、SD02、03は川跡内につくられており、SD02は幅1.1m、SD03は幅30cm、川についてはトレンチ内では幅は確認できなかった。

9トレンチは、耕作土下に攪乱層が認められるが遺物は含まず、埋土中に耕作土も混じることから、土取りなどの痕跡と考えられる。

10トレンチでは、南北に向く2条の溝状の落ちを確認した。埋土は単一土層であり締まりは悪い。農業用等の灌水路を埋め立てたものと思われる。

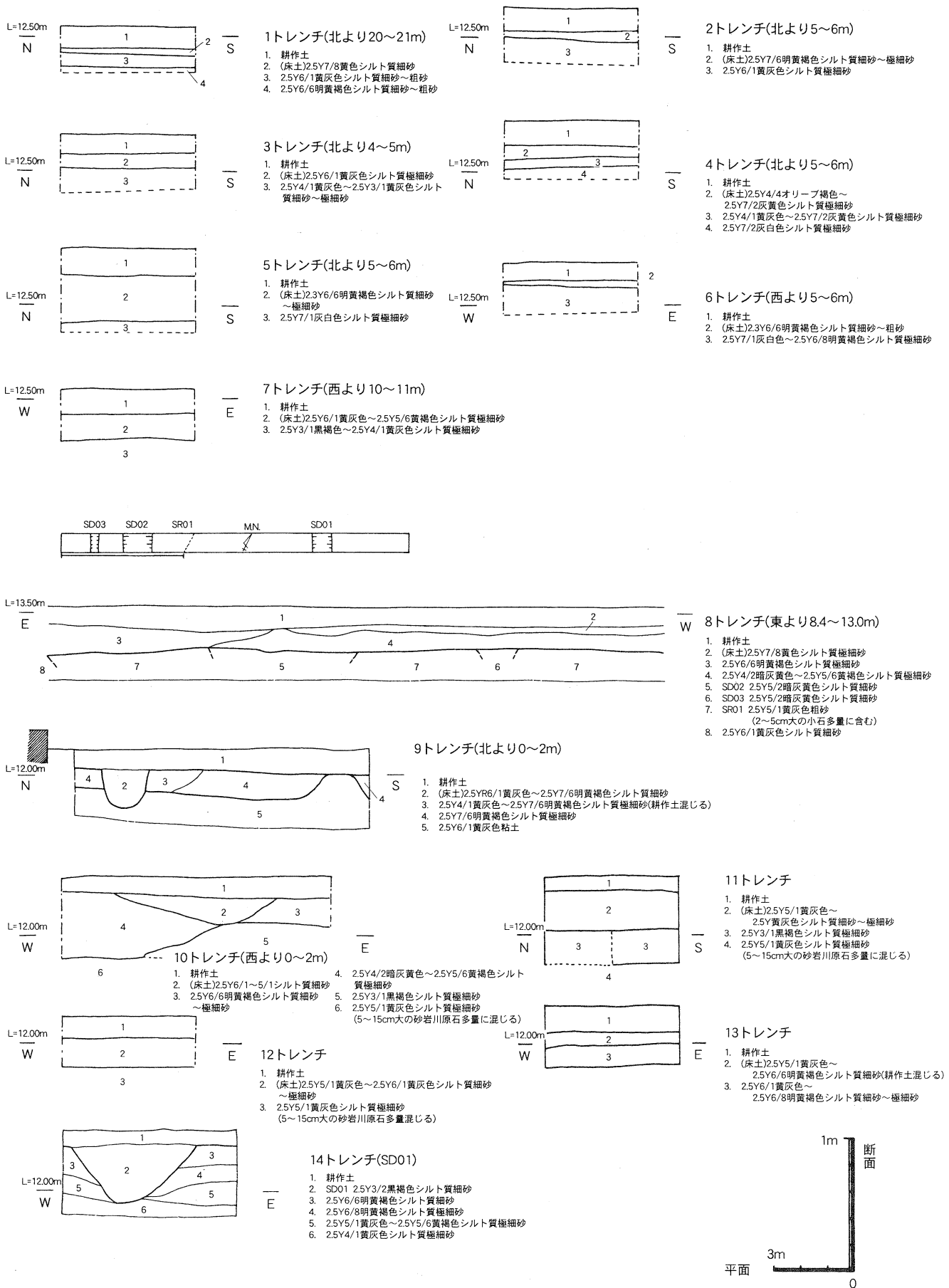
11、13トレンチでも10トレンチで認められた溝状の落ちの続きが確認できた。

12トレンチでは、耕作土直下には安定したシルト質の堆積層が認められた。

14トレンチの東端において南北方向の溝1条が確認できた。トレンチ中央部から西側にかけて耕作土直下から約30cm下において5cm大の砂岩製円礫を含む層や、砂層を確認できるためこの付近に流路があったと考えられる。

トレンチ名	延長(m)	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	31.0	不明	無し	無し
2トレンチ	13.0	不明	無し	無し
3トレンチ	6.0	不明	無し	無し
4トレンチ	8.0	不明	無し	無し
5トレンチ	7.5	不明	無し	無し
6トレンチ	29.5	不明	無し	無し
7トレンチ	25.0	不明	無し	無し
8トレンチ	8.0	不明	溝3条・川跡1条	無し
9トレンチ	10.0	不明	無し	無し
10トレンチ	11.0	不明	溝2条	無し
11トレンチ	3.5	不明	溝1条	無し
12トレンチ	7.0	不明	無し	無し
13トレンチ	9.5	不明	溝2条	無し
14トレンチ	11.0	不明	溝1条	無し

第2表 山北町字原窪地区2次調査 トレンチ概要



第6図 2次調査 トレンチ平面・土層断面図

4. まとめ

照会のあった2件の開発計画について、それぞれ試掘トレンチによる調査を実施した。

1次調査では1～4トレンチで南北方向の溝跡が数条確認できた。それらの遺構には規則性も認められず、条里遺構と結び付けるには至らなかった。

また、調査区は少し深く掘ると粗砂層となり湧水が激しくなることから旧流路域であった可能性が高い。

5～10トレンチではピットが確認できたが遺物、遺構ともに集中しては認められず遺構密度は低い。東端の11、12トレンチでも遺構は認められず、また低い位置から円礫を多量に含む粗砂層がみられることから旧流路域であったと考えられる。

調査区東側に旧金毘羅街道が通ることからも遺跡の展開が考えられたが遺構などは認められず、耕作土直下において旧流路域の堆積土層が確認できることから大きく後世の改変を受けているものと考えられる。

2次調査では遺物は認められなかった。遺構についても調査区東側において数条の溝が確認できたが、埋土や掘削状況から農業の灌水路と考えられ新しいと思われる。

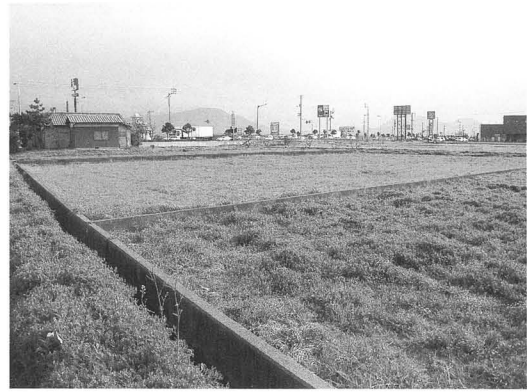
また、中央部においては窪地に自然堆積した腐食土層が認められ、湧水も激しかった。調査区付近の地名が『原窪』と呼ばれることもこのことを裏付けるものと考えられる。

調査区周囲の溝についても、その状況から古い可能性も考えられたが調査で遺物が全く認められず周囲の調査でも認められない点、今回確認できた溝についても遺物が認められず、埋土が一気に埋められた締りの悪い単一土層であることから、この溝の区画内に生活遺構等が存在する可能性は低いと考えられる。

これらの調査の結果、C地区の南辺、東辺には、条里地割に沿った直角に屈曲する水路があり旧地形に合わせた配置になっている方形区画であると考えていたが、その内部で関連する遺構の確認はできなかった。そのため、この矩形の水路についても遺構の可能性は低いと考えられる。



A地区調査前現況（南から）



B地区調査前現況（東から）



調査風景



1トレンチ完掘状況（東から）



2トレンチ完掘状況（西から）



3トレンチ完掘状況（東から）



4トレンチ完掘状況（西から）



4トレンチ溝土層状況（南から）

図版1 山北町字原窪地区1次調査(1)



5トレンチ完掘状況（東から）



5トレンチピット完掘状況（南から）



6トレンチ完掘状況（西から）



6トレンチ土層堆積状況（南から）



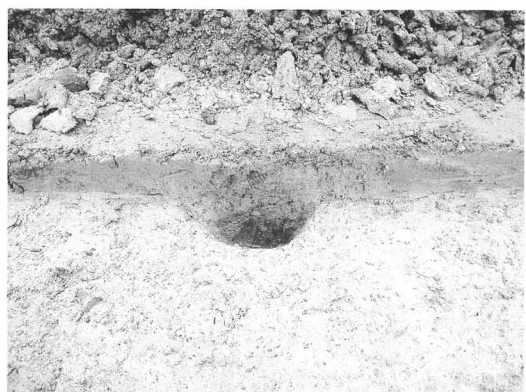
7トレンチ完掘状況（西から）



7トレンチ土層堆積状況（南から）



8トレンチ完掘状況（東から）



8トレンチ土層堆積状況（北から）

図版2 山北町字原窪地区1次調査(2)



9トレンチ完掘状況（西から）



9トレンチ土層堆積状況（南から）



10トレンチ土層堆積状況（西から）



11トレンチ土層堆積状況（南から）



12トレンチ土層堆積状況（南から）



A地区埋め戻し状況（東から）



B地区埋め戻し状況（西から）

図版3 山北町字原窪地区1次調査(3)



图5-1



图5-2



图5-3



图5-4



图5-5



图5-6



图5-7



图5-8



图5-9



图5-10



图5-11

图版4 山北町字原窪地区1次調査(4)



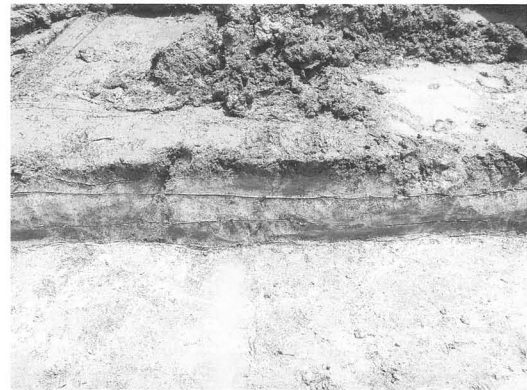
調査区風景（西から）



重機掘削風景（北から）



1トレンチ全景（南から）



1トレンチ土層堆積状況（西から）



2トレンチ全景（北から）



2トレンチ土層堆積状況（西から）



3トレンチ全景（北から）



3トレンチ土層堆積状況（西から）

図版5 山北町字原窪地区2次調査（1）



4トレンチ全景（北から）



4トレンチ土層堆積状況（西から）



5トレンチ全景（北から）



5トレンチ土層堆積状況（西から）



6トレンチ全景（東から）



6トレンチ土層堆積状況（南から）



7トレンチ全景（東から）



7トレンチ土層堆積状況（南から）

図版6 山北町字原窪地区2次調査(2)



8トレンチ全景（東から）



8トレンチ土層堆積状況（南から）



8トレンチSD01（南から）



8トレンチSR01・SD02・SD03（南から）



9トレンチ全景（南から）



9トレンチ土層堆積状況（西から）



10トレンチ全景（西から）



10トレンチSD01土層堆積状況（南から）

図版7 山北町字原窪地区2次調査(3)



11トレンチ全景（北から）



11トレンチ土層堆積状況（西から）



12トレンチ全景（東から）



12トレンチ土層堆積状況（南から）



13トレンチ全景（西から）



13トレンチSD02土層堆積状況（南から）



14トレンチ全景（西から）



トレンチ埋め戻し状況（東から）

図版8 山北町字原窪地区2次調査（4）

飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区
【西坂元内板遺跡】

第三章 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区試掘調査

調査対象地	飯山町西坂元字内板 575-1、577-1、577-4、 578-1、578-3、579、580、581、582-1、 582-3、583-1、583-3、584、585、586、587-1 飯野町東二字中代甲 346-3、甲351、甲352-2
調査期間	平成18年4月24日～4月28日
調査面積	219㎡

1. 立地と環境

香川県のほぼ中央部にある飯山町は、昭和31年に法勲寺村と坂本村が合併して誕生した町で、東部には城山山塊があり連なった山地が西南と西北に延びている。北部にはその名の由来となる飯野山があり讃岐富士と呼ばれる景観を呈している。仁池・大窪池・楠見池の三大池を擁し、西に土器川が中央部を大東川が流れる沖積低地である。

当調査該当地は飯野山の東南麓に広がる豊かな丘陵地であり、南東側が低く北側及び西側が微高地状の地形を呈する。標高は15～17mである。飯山町内では六箇所で旧石器出土地が知られている。そのうち四箇所はため池内で発見点数も少ない。弥生時代になると飯野山の山頂・中腹・丘陵地に比較的多く見られる。山裾には楠見山遺跡・三ノ池遺跡が古くから箱式石棺、弥生土器の散布地として知られている。西麓では弥生時代後期の竪穴住居群と古墳時代後期の古墳を3基確認している。古墳時代になると久保大塚古墳、極楽寺古墳、やかじ古墳、三ノ池古墳群、坂元神社西古墳群1～3号、真時古墳と大きくその数を増やす。

古代になると上法・下法地区、川原地区、西坂元地区に条里地割りを見ることができる。

飯山町より2km大東川を下った坂出市下川津遺跡に弥生時代の大きな集落地があることから弥生の集落地や豪族の住居社があることは十分に考えられる。

2. 調査に至る経緯

商業施設建設が計画されたことに伴い、事業者から平成18年3月31日付けで『埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて』の照会文書が提出された。

当該地については、周知の埋蔵文化財包蔵地には指定されておらず直近にも遺跡の分布



第7図 調査位置図

も無く、市教育委員会には埋蔵文化財に関するデータが整っていなかったことから、市教育委員会では状況を確認すべく試掘調査の準備に入った。4月3日施行決定をし、4月25日から調査を開始した。調査の結果を6月8日に回答し県との協議の後、調査区西部及び南部が西坂元内板遺跡として登録された。

3. 調査の概要

調査区の範囲内で、現在道路・水路として使用されている部分を除いた範囲に32本の試掘トレンチを設定し調査を実施した。

1 トレンチでは、東西方向の溝1条と南北方向の溝2条、ピット、土壌を検出した。遺構は、現状地盤より60cmほど下で認められる。溝は層序関係から切り合いが認められ、東西方向のものが先行することが分かった。

また、遺構面までの堆積については、旧水田面と考えられる層が数次認められる。遺物1は4層から出土し、口径約28cmを測る土師質の鍋である。

2 トレンチでは、現状地盤から70cmほど下において南北方向の溝を2条検出した。遺物2は地山直上において検出したサヌカイト製のスクレイパーである。

3 トレンチでは、ピットを検出した。遺物3は羽釜片である。

4 トレンチでは、現状地盤から80cmほど下において南北方向の溝を2条とピットを検出した。土層2層より遺物4の鉢、遺物5のサヌカイト、3、4層より遺物6の土師質の鍋、土層7層より遺物12のカマド片が、SD01より遺物8～11の土師質の坏及び遺物12の小皿が出土している。遺物の状況から12～13世紀の溝と考えられ、条里に関係する溝の可能性はある。

5 トレンチでは、明確な遺構は認められなかった。1mほど掘ると10cm大の円礫を含む細砂層があり水が湧いた。

6 トレンチでは、南北方向の溝を2条検出した。溝は5～10cm大の円礫を含むシルト質細～粗砂層で構成される基盤層を掘り込む形で形成される。

7 トレンチでは、現状地盤から60cm程下において南北方向の溝3条、ピットを検出した。

8 トレンチでは、7トレンチで検出した溝と連続すると考えられる溝3条が確認できた。出土した遺物については、SD02より遺物13の弥生の甕が出土したが他の要因による混ざり込みと考えられる。

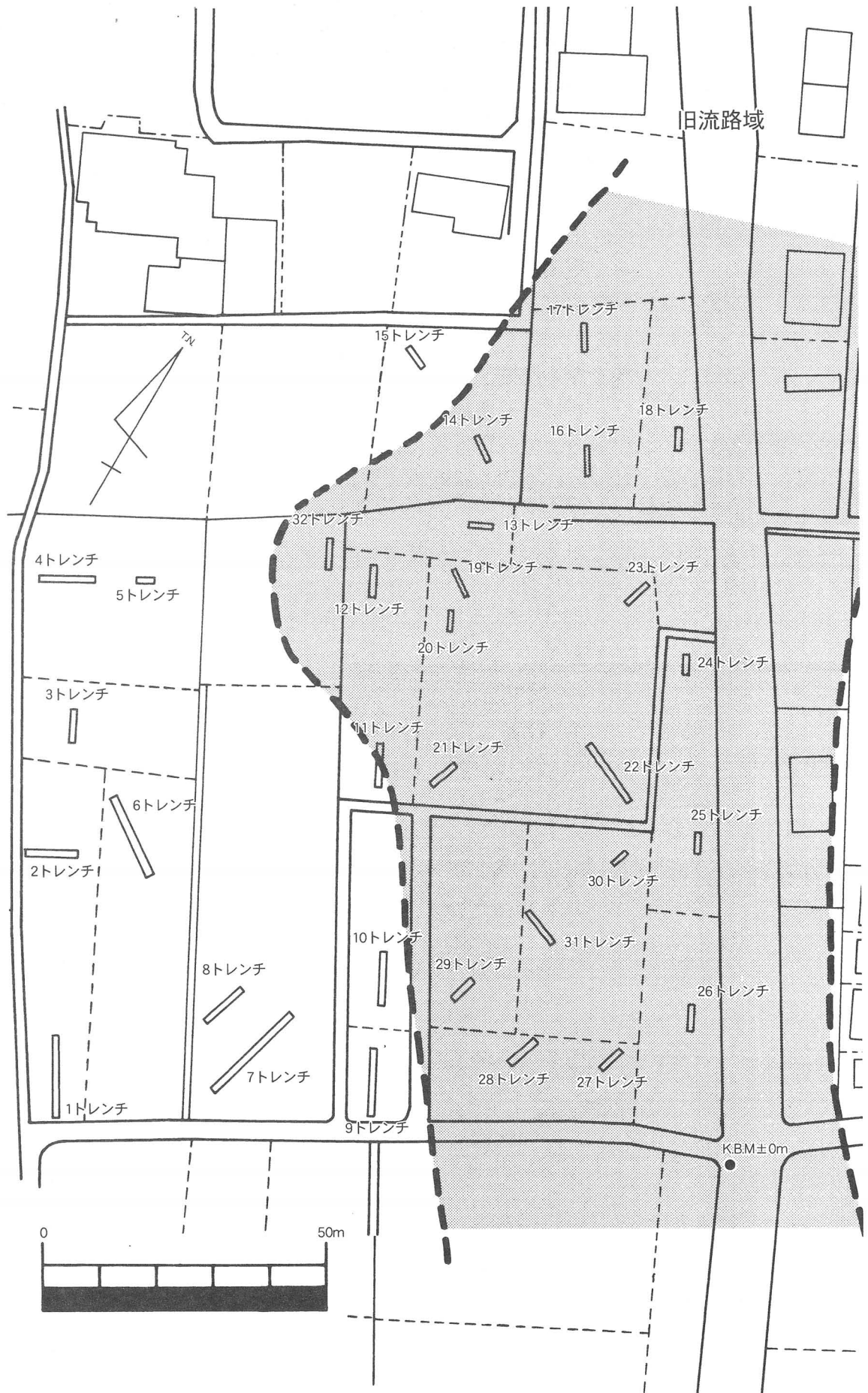
9 トレンチでは、トレンチ北区で東西方向の溝を検出した。また、遺物14の土師質が鍋出土した。

10、11 トレンチでは、遺物、遺構共にみとめられなかった。

12 トレンチでは、中央部付近においてピットを検出した。

13 トレンチでは、遺物、遺構共に認められなかった。120cmほど掘ると、5～長軸50cm大の川原石を含む細砂層が認められた。

14 トレンチでは、現状地盤より100cmほど掘ると、粗砂を含むシルト質細砂層の地山が認められた。遺物15は土師質碗の底部、遺物16は土師質坏、遺物17は土師質の坏の底部で内側は黒色の土器である。ベース直上の堆積層から遺物18の小型の坏、遺物19、20の土師質の坏の底部片が出土した。



第8図 トレンチ配置図・旧地形予想復元図

15トレンチでは遺構等は認められなかったが、南端において浅い落ち込みを確認した。包含層からは遺物21の緑釉陶器の底部。墨の跡が残り、硯への転用も考えられる。遺物22の羽釜、遺物23の石鏃が出土した。

16、17、18トレンチでは、遺物の包含は見られるが、遺構は見られなかった。

19トレンチでは、流路域と考えられる南北方向を向く溝2条を検出した。

20トレンチでは、19トレンチから続く旧流路域を確認した。この位置において川跡は屈曲すると考えられる。

21、23～25トレンチでは、遺構は認められなかった。

22トレンチでは、溝跡、ピット、土壌などを確認した。溝跡は南北方向を向き、土壌は北側に於いて検出し、幅20cm、長さ40cmほどの川原石が東西方向に列を成している。また、この位置から骨片を数点確認できたので、墓の可能性はある。

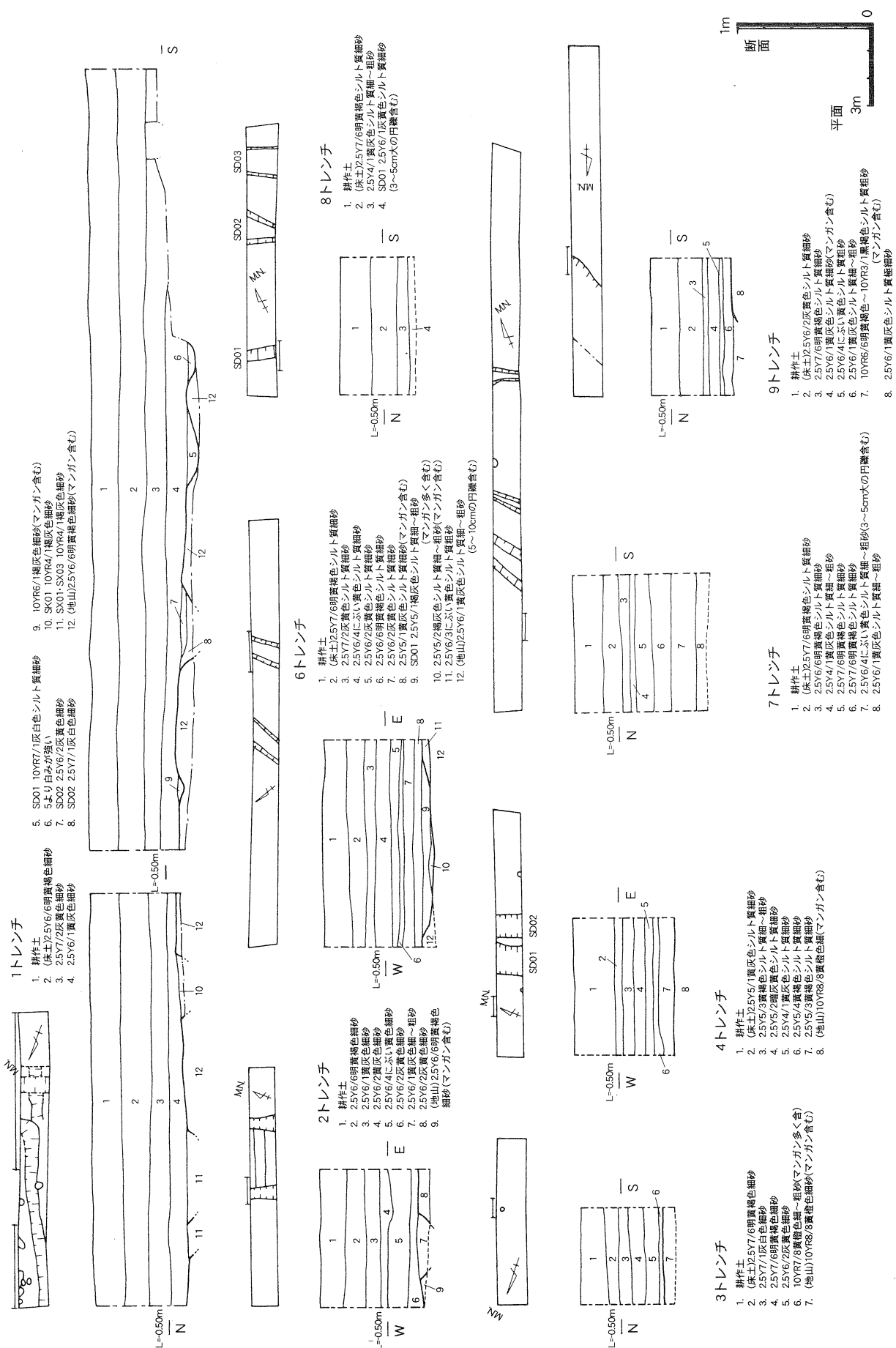
26、27、28トレンチは旧水路跡と考えられる。27トレンチの6層から遺物24の壺の頸部片が出土している。流れ込みによるものと見られる。

29トレンチでは、遺構等は認められなかった。湧水の激しい15cm大の川原石を含むシルト質粗砂層が確認できた。

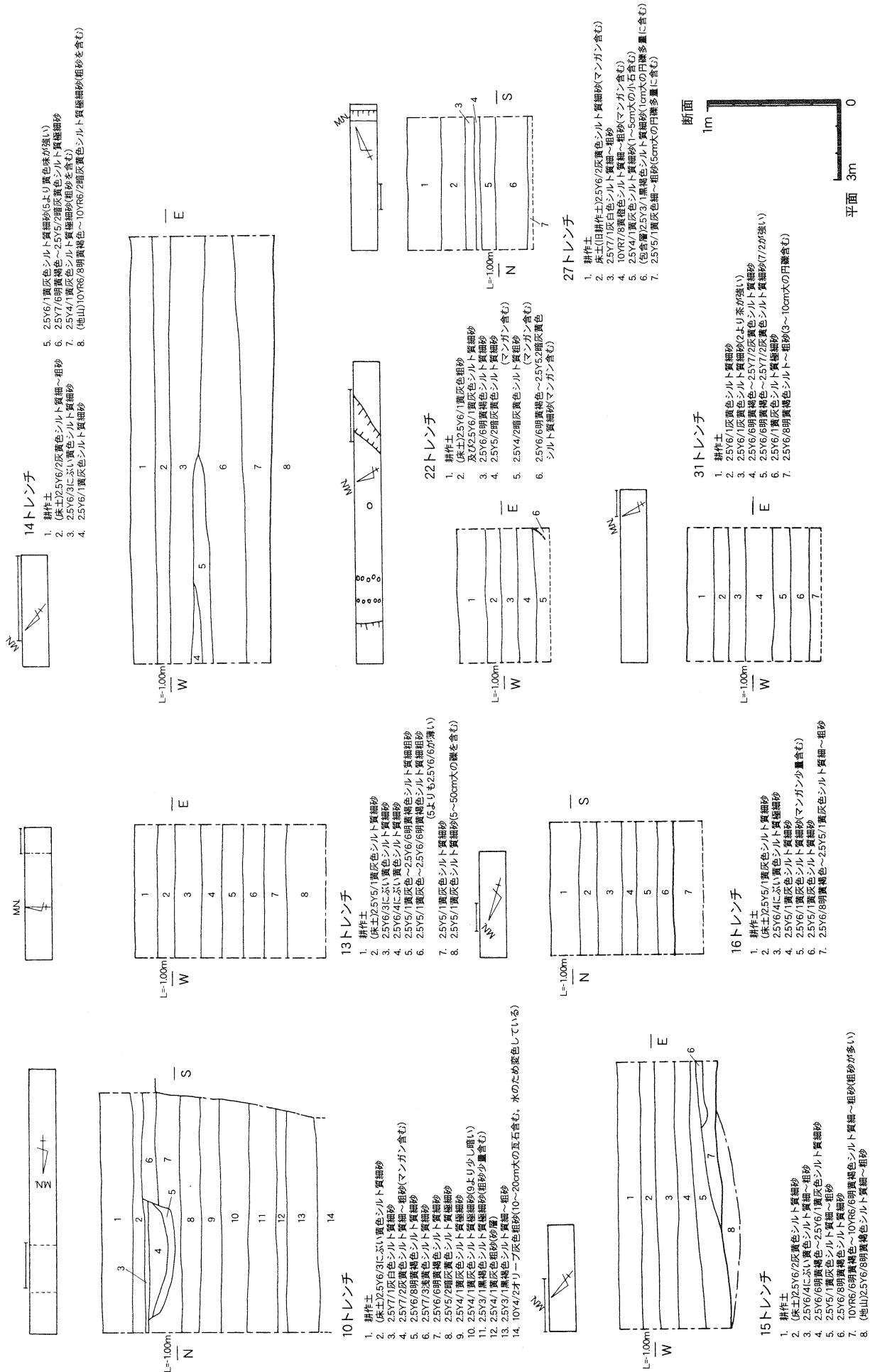
30、31、32トレンチでは、遺物、遺構共に認められなかった。

トレンチ名	延長(m)	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	10.7	古代、中世	溝2、ピット4、土壌2	土師器
2トレンチ	8.7	弥生、古代	溝2	土師器、石器
3トレンチ	6.1	古代、中世・近世	ピット1	土師器
4トレンチ	9.0	弥生、古代～近世	溝2、ピット1	土師器、石器
5トレンチ	2.7	中世、近世	無し	土師器
6トレンチ	15.1	中世	溝2	土師器
7トレンチ	20.5	不明	溝3、ピット1	無し
8トレンチ	10.1	古墳、中世	溝2	土師器、須恵器 弥生土器
9トレンチ	13.2	古代	溝1	土師器
10トレンチ	10.0	不明	無し	無し
11トレンチ	7.2	不明	無し	無し
12トレンチ	4.7	弥生、古墳、中世、 近世	ピット1	土師器、須恵器
13トレンチ	5.0	不明	無し	無し
14トレンチ	4.2	中世、近世	無し	土師器、須恵器
15トレンチ	4.0	弥生、中世、近世	無し	土師器、石器
16トレンチ	4.0	中世、近世	無し	土師器、陶磁器
17トレンチ	4.0	近世	無し	土師器
18トレンチ	4.0	不明	無し	無し
19トレンチ	4.3	不明	旧流路跡	無し
20トレンチ	3.5	近世	旧流路跡	土師器
21トレンチ	4.2	不明	無し	無し
22トレンチ	11.4	近世	溝1、ピット1、土壌1	土師器、骨片
23トレンチ	4.0	近世	無し	土師器
24トレンチ	4.0	近世	無し	土師器、陶磁器
25トレンチ	4.0	近世	無し	土師器、陶磁器
26トレンチ	4.0	不明	旧流路	無し
27トレンチ	5.5	弥生、古墳	旧流路	土師器
28トレンチ	5.2	近世	無し	土師器
29トレンチ	6.0	近世	無し	土師器、木片
30トレンチ	4.5	不明	無し	無し
31トレンチ	7.2	不明	無し	無し
32トレンチ	4.5	不明	無し	無し

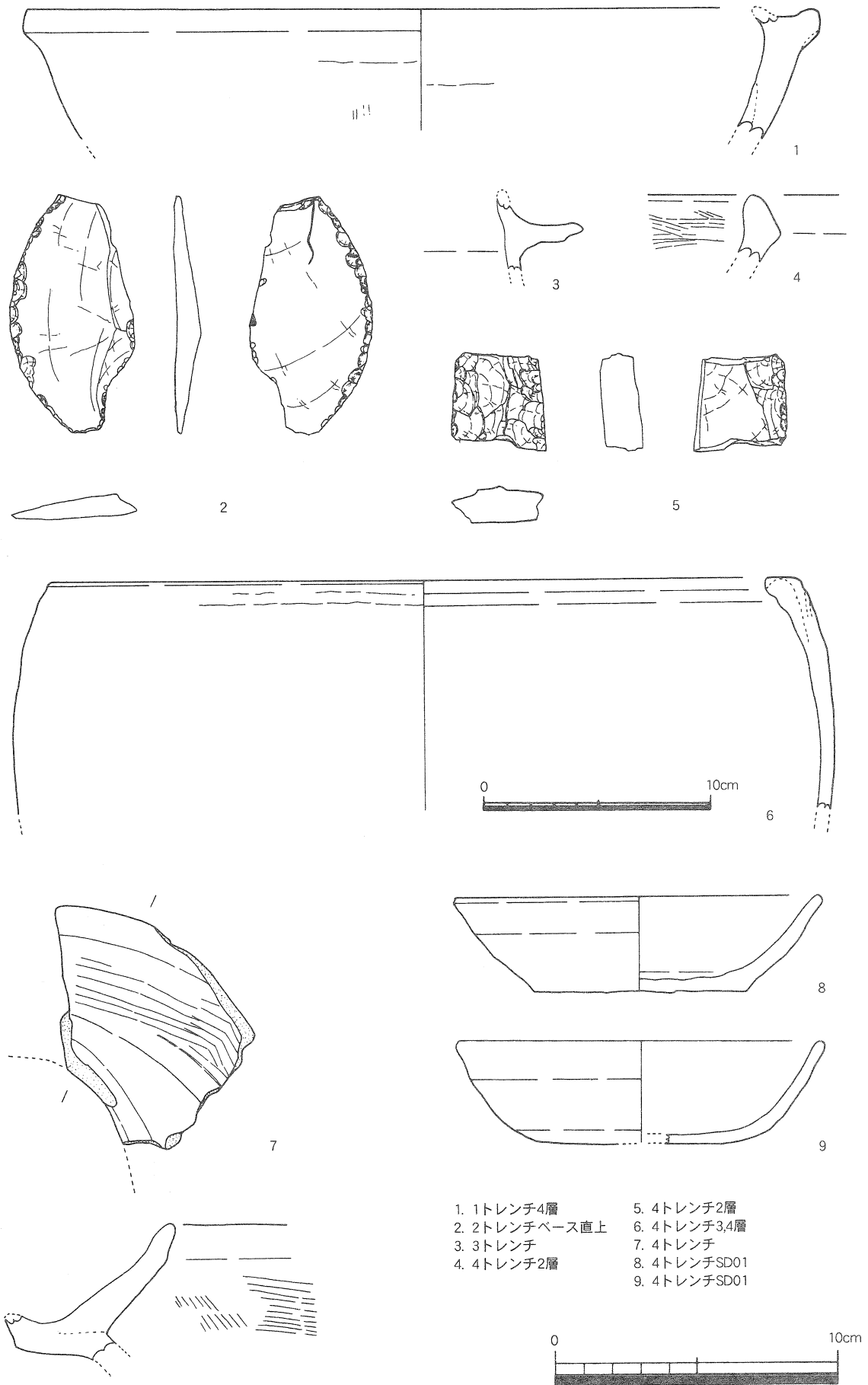
第3表 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区 トレンチ概要



第9図 トレンチ平面・土層断面図(1)

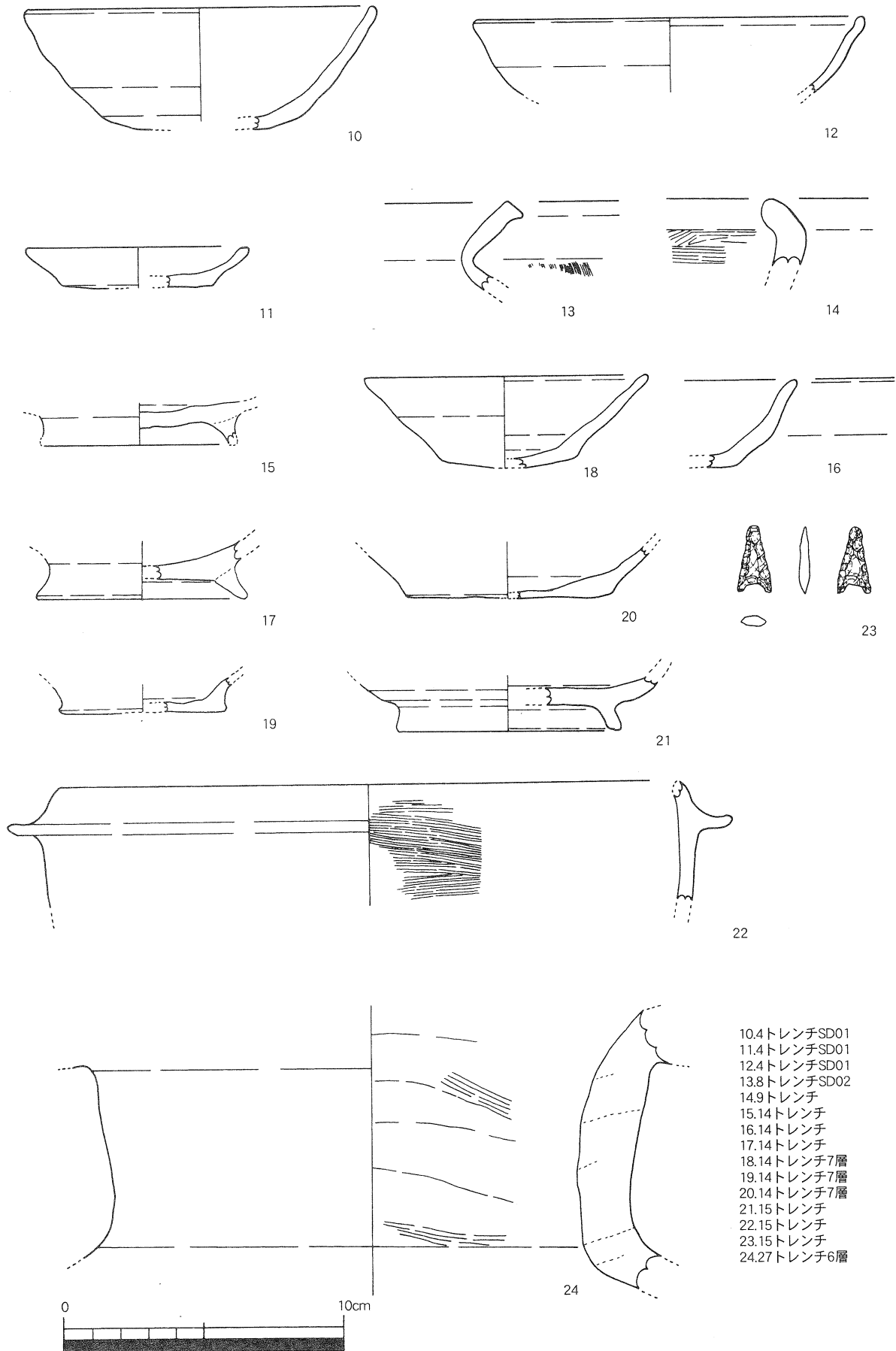


第10図 トレンチ平面・土層断面図(2)



- 1. 1トレンチ4層
- 2. 2トレンチベース直上
- 3. 3トレンチ
- 4. 4トレンチ2層
- 5. 4トレンチ2層
- 6. 4トレンチ3,4層
- 7. 4トレンチ
- 8. 4トレンチSD01
- 9. 4トレンチSD01

第11図 遺物実測図(1)



第12図 遺物実測図(2)

4. まとめ

32本設定した試掘トレンチの内、1～10トレンチにかけて溝跡やピットを確認することができた。他のトレンチについては、遺物を包含する層は認められるものの遺構は基本的に検出されず、深い位置で旧流路域が確認できるのみであった。層序を見ると1～18トレンチにかけては比較的浅い位置に安定した地盤の遺構面を持つが、19～32トレンチにかけては旧流路と考えられ安定面は見受けられなかった。

各トレンチの土層序を見ると、旧水田面が下層に見られ、19～32トレンチにおいては幾重かの整地土層が見られることから、度重なる地上げが行われていたことがわかる。

遺物については、古代から近世のものが認められるが細片のものが主であり、遺構に伴うというよりは付近から流れ込んできたと考えられる。

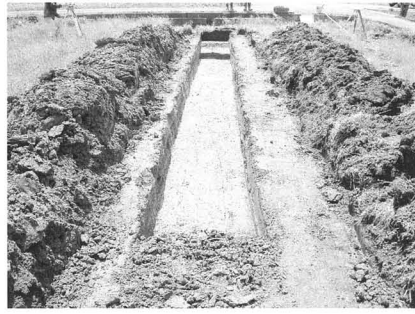
15トレンチで認められた石鏃についても、遺構に伴うものではなく包含層中のものであり調査区内で弥生時代の遺構が存在するというよりは付近から流れ込んできたものと考えられる。

以上の調査から、調査区東側に緩やかに蛇行する旧流路域が想定される。そのまわりには、氾濫域が広がり北に向かって下っていく。その高低差は約90cmと考えられる。

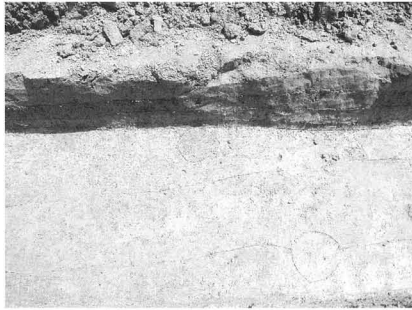
今回の調査では、開墾時等の掘削などにより遺構面は削平を受けており明確な住居跡は検出できなかったが、北西部および南西部の微高地への居住域の展開が考えられる。今後の調査の事例を待ちたい。



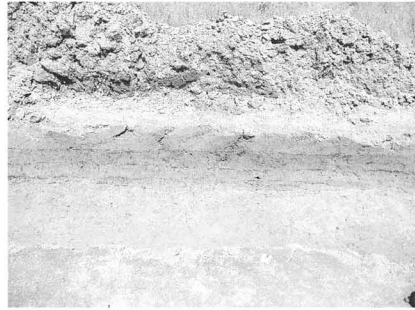
1トレンチ重機掘削風景（南から）



1トレンチ全景（北から）



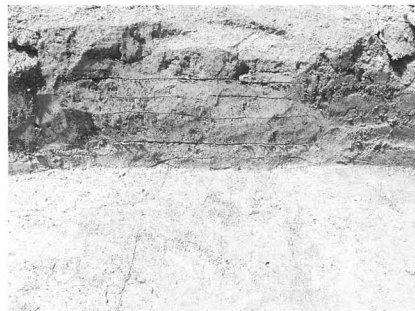
1トレンチ遺構検出状況（西から）



1トレンチ土層堆積状況（西から）



2トレンチ遺構検出状況（東から）



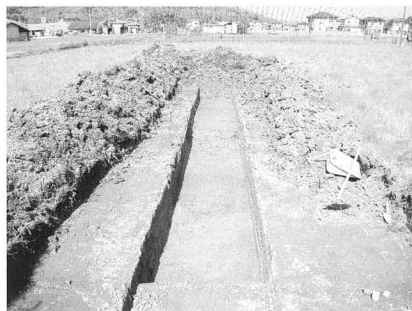
2トレンチ土層堆積状況（南から）



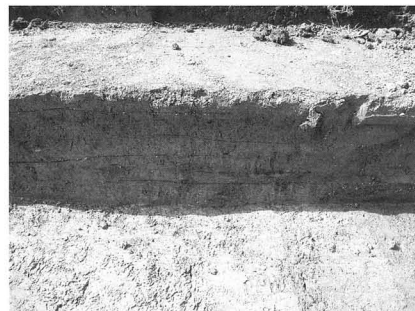
3トレンチ全景（北から）



3トレンチ土層堆積状況（西から）



4トレンチ全景（西から）

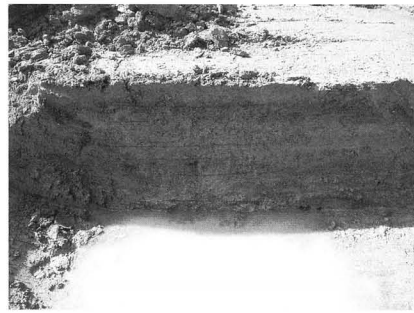


4トレンチ土層堆積状況（南から）

図版9 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区（1）



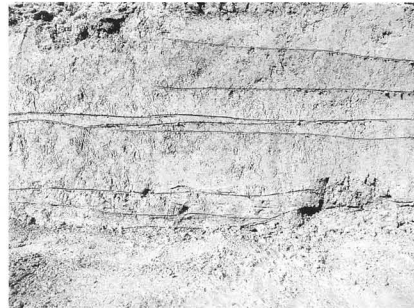
5トレンチ全景（東から）



5トレンチ土層堆積状況（南から）



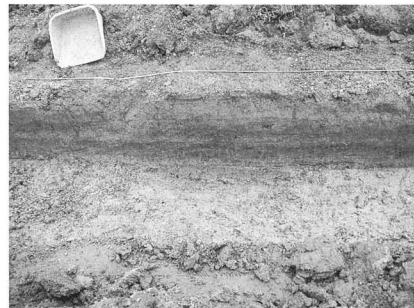
6トレンチ全景（南から）



6トレンチ土層堆積状況（南から）



6トレンチSD01検出状況（南から）



6トレンチSD02検出状況（南から）



7トレンチ全景（南から）



7トレンチ堆積状況（西から）



8トレンチ全景（南から）

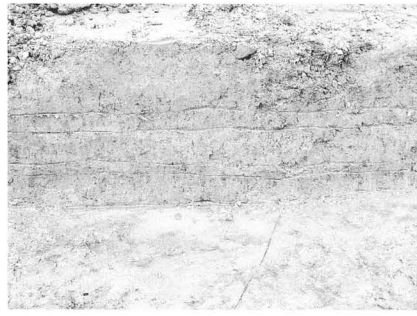


8トレンチSD02完掘状況（西から）

図版10 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区（2）



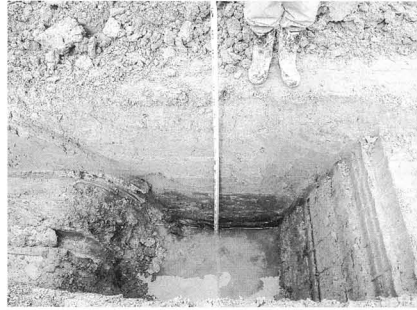
9トレンチ全景（南から）



9トレンチ土層堆積状況（西から）



10トレンチ全景（北から）



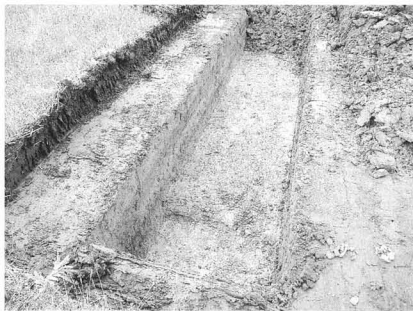
10トレンチ土層堆積状況（西から）



11トレンチ全景（北から）



11トレンチ土層堆積状況（西から）



12トレンチ全景（南から）



12トレンチ遺構検出状況（西から）



13トレンチ全景（東から）



13トレンチ土層堆積状況（南から）

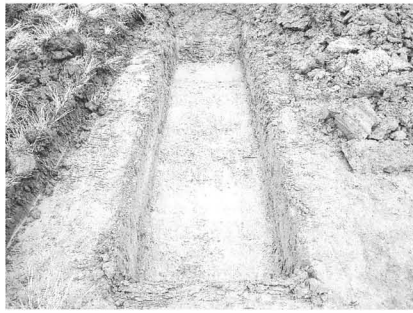
図版11 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区（3）



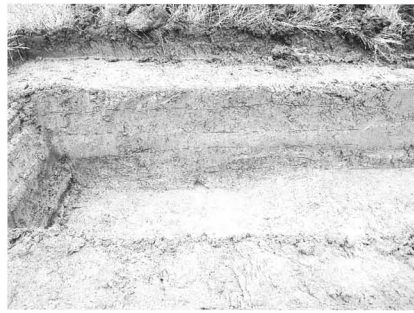
14トレンチ全景（東から）



14トレンチ土層堆積状況（南から）



15トレンチ全景（西から）



15トレンチ土層堆積状況（南から）



16トレンチ全景（北から）



16トレンチ土層堆積状況（西から）



17トレンチ全景（南から）



17トレンチ土層堆積状況（西から）



18トレンチ全景（南から）



18トレンチ土層堆積状況（西から）

図版12 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区（4）



19トレンチ全景（南から）



19トレンチ土層堆積状況（西から）



20トレンチ全景（南から）



20トレンチ土層堆積状況（西から）



21トレンチ全景（北から）



21トレンチ土層堆積状況（西から）



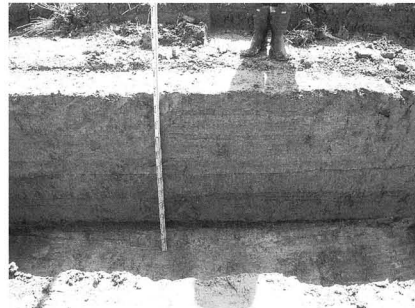
22トレンチ全景（東から）



22トレンチ土層堆積状況（南から）

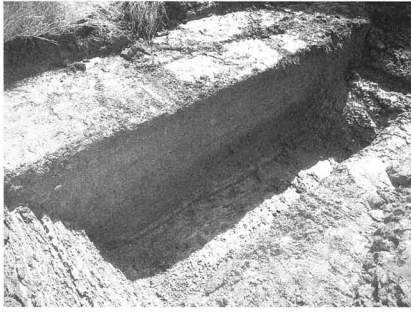


23トレンチ全景（北から）



23トレンチ土層堆積状況（西から）

図版13 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区（5）



24トレンチ全景（南から）



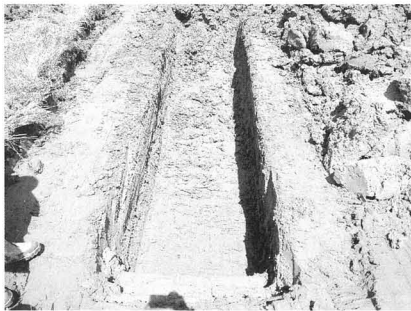
24トレンチ土層堆積状況（南から）



25トレンチ全景（北から）



25トレンチ土層堆積状況（西から）



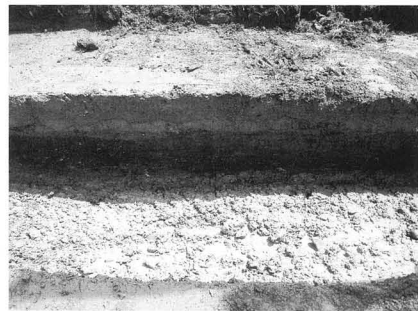
26トレンチ全景（南から）



26トレンチ土層堆積状況（西から）



27トレンチ全景（北から）



27トレンチ土層堆積状況（西から）



28トレンチ全景（北から）



28トレンチ土層堆積状況（西から）

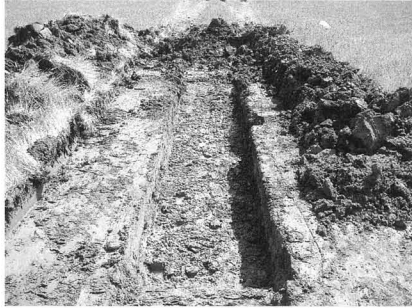
図版14 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区（6）



29トレンチ全景（北から）



29トレンチ土層堆積状況（西から）



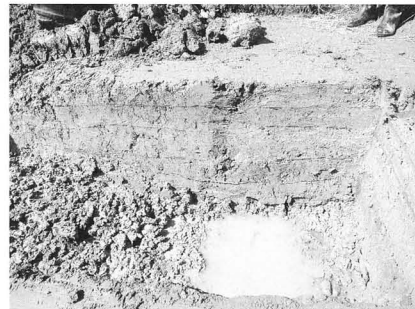
30トレンチ全景（北から）



30トレンチ土層堆積状況（西から）



31トレンチ全景（南から）



31トレンチ土層堆積状況（西から）



32トレンチ全景（北から）



32トレンチ土層堆積状況（西から）



6トレンチ埋め戻し状況（西から）



7トレンチ埋め戻し状況（北から）

図版15 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区（7）



图11-1

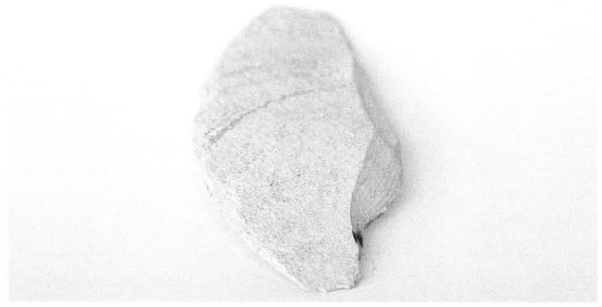


图11-2



图11-3

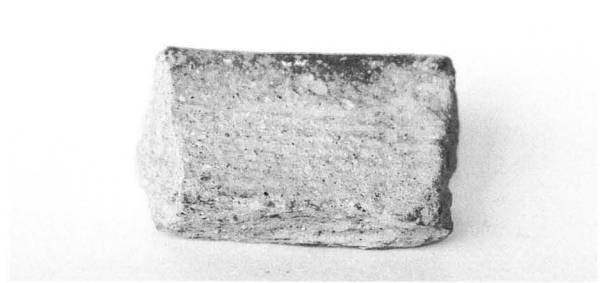


图11-4



图11-5

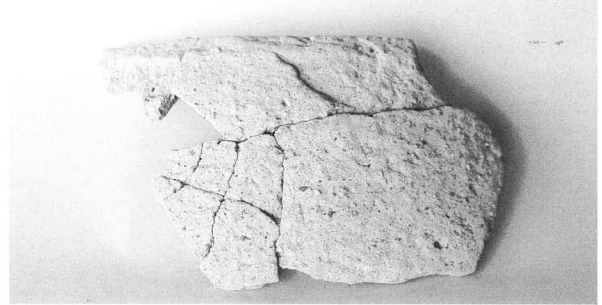


图11-6



图11-7



图11-8



图11-9



图12-10

图版16 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区(8)



图12-11



图12-12

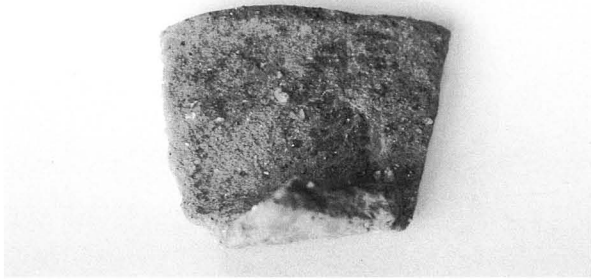


图12-13

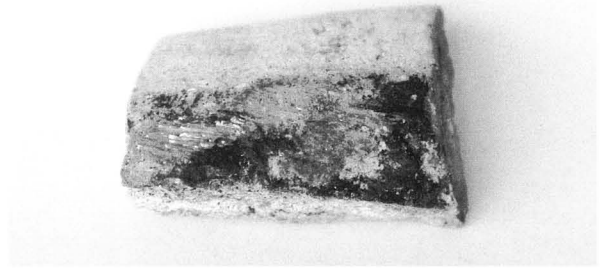


图12-14



图12-15

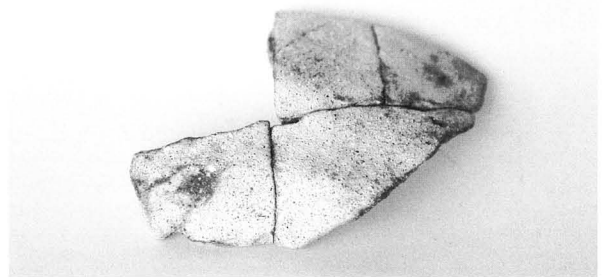


图12-16



图12-17



图12-18



图12-19



图12-20

图版17 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区(9)

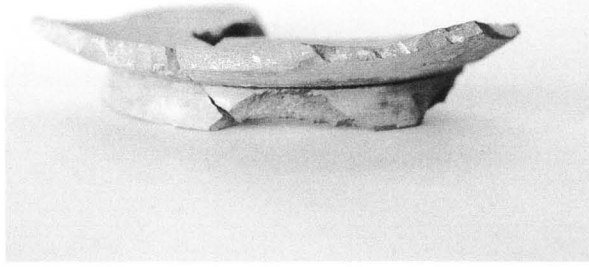


图12-21



图12-22



图12-23

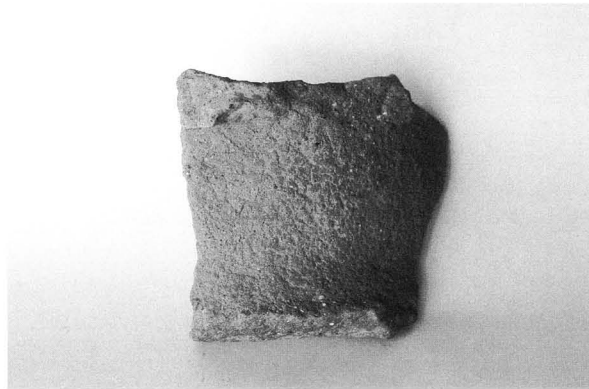


图12-24

图版18 飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区(10)

郡家町字地頭・字重元地区

第IV章 郡家町字地頭・字重元地区試掘調査

調査対象地	郡家町字地頭790-1 郡家町字重元1199-2
調査期間	平成18年6月5日
調査面積	15.4㎡

1. 立地と環境

丸亀市を東西に走る善通寺府中線の南に位置する宮池遺跡は古代の遺物が散布しており、その東側には古墳時代からの遺物が散布している領家遺跡が存在している。

更に、南側には宝幢寺池と辻池・仁池が寄り添う池の中に古代寺院で知られる宝幢寺跡が位置している。

そして、この地域は古代の条里地割がよく残っていることが、四国自動車道建設に伴う郡家原遺跡、郡家一里屋遺跡、郡家大林上遺跡、郡家田代遺跡などの調査成果から明らかになっている。

今回調査した郡家町は、地名からみても古代郡衙が置かれていたものと推定されている地域である。

古代香川県は、讃岐国として南海道に属していたところで、『延喜式』『和名類聚抄』によると11郡に分けられており、現在の丸亀市は鞆足郡・那珂郡から成り、郡家町は那珂郡の郡衙が存在していたものと考えられている。

2. 調査に至る経緯

丸亀市立郡家小学校の校舎増築が計画されたことに伴い、この地域に存在していると推定される郡衙跡の所在を探るために、校舎建設に先立って対象範囲内の試掘調査を実施した。

また、当該地が現在の地形になる以前は、東側の水路が湾曲して通っていたりすることから何らかの埋蔵文化財に関連する遺構が存在していた箇所であることも考えられることから、特に重要視されている場所のひとつでもある。

調査は、学校用地内であるため授業、安全等を考慮して検討した結果、学校が休日になる日で設定した。

また、調査後も学校活動に支障が生じないように、速やかに埋め戻し原状に復した。



第13図 調査位置図

3. 調査の概要

調査区は郡家小学校校舎南棟の東側にあたり、旧地形の痕跡も含めて探るため東西方向に試掘トレンチを3本設定した。

調査の結果、現在の校庭整備による造成盛土が地表下1.6mのところまで確認できた。

2トレンチでは埋土状況などから新しいものと思われる溝跡が検出できたが、遺構、遺物の検出は無かった。旧地形に見られる水路の痕跡であると思われるが、遺物等の出土も見られないことから、遺構としての取り扱いが難しい状況である。

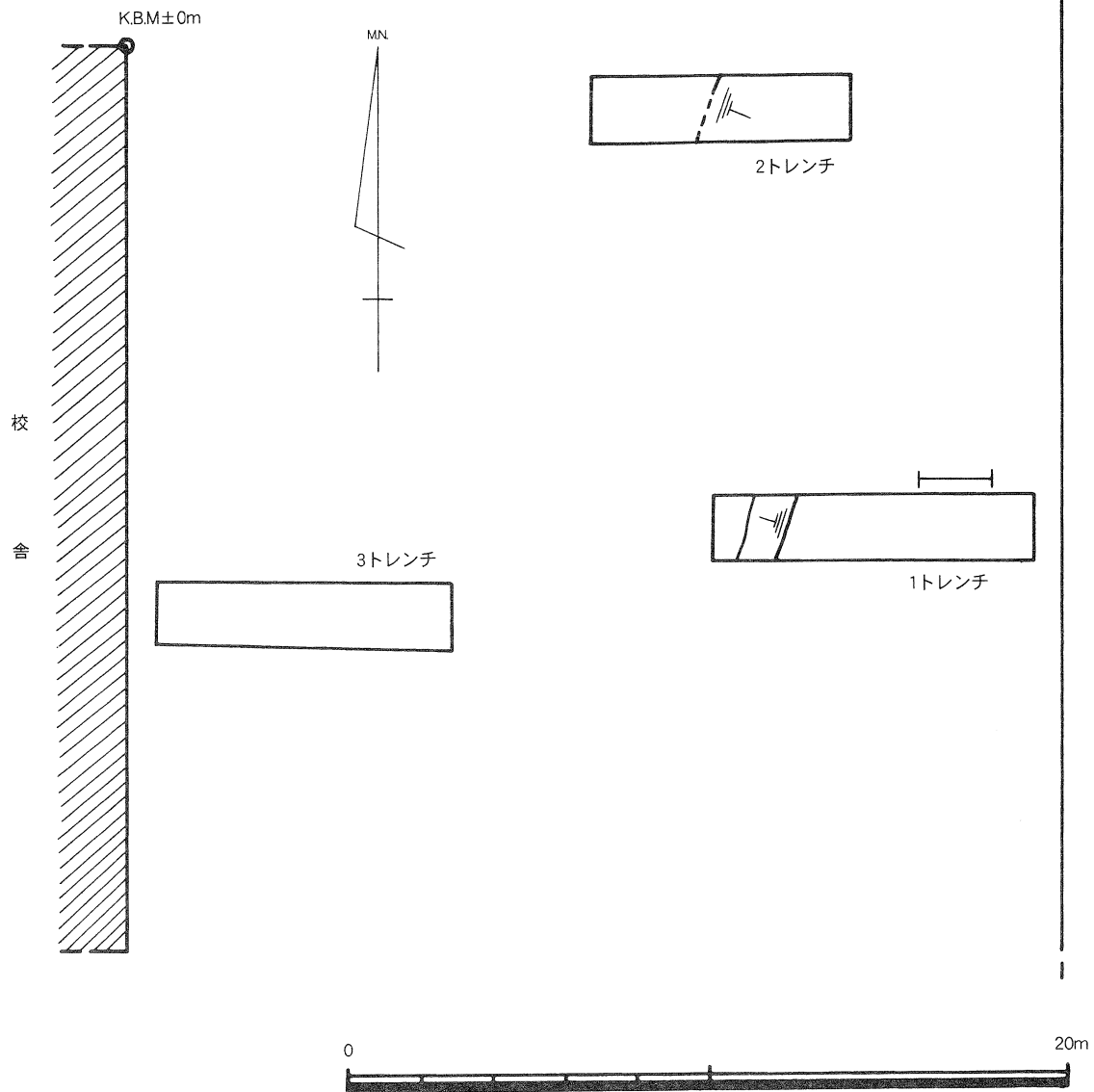
今回の調査では、全てのトレンチで埋蔵文化財に関する資料を得ることはできなかった。

4. まとめ

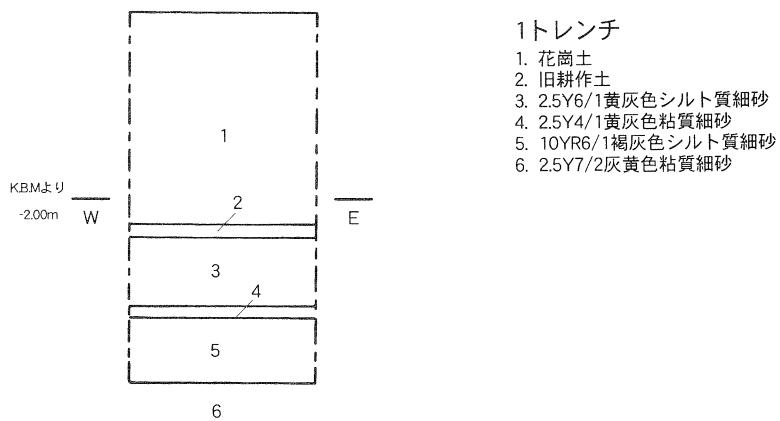
今回の調査では、様々な制約を受けた中での実施であり、調査範囲も狭く、各トレンチも小規模であったことから十分な資料を得ることはできなかった。

調査トレンチでの状況も、上半部が現在の校庭整地土であり、その下層での確認調査を実施しなければいけないということもあることから非常に厳しいものであった。

溝状の落ちを検出したが、旧地形に見られる水路痕跡と思われる。条里、郡衙等の地割りに関する地形が残っているのかも知れないが、遺物も伴わず詳細は不明であった。



第14図 トレンチ配置図



第15図 1トレンチ北壁土層断面図 (S=1/40)



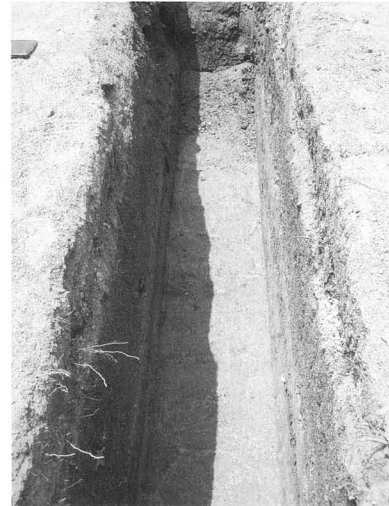
調査前（南から）



重機掘削風景（南から）



1トレンチ土層堆積状況（南から）



2トレンチ全景（東から）



2トレンチ土層堆積状況（南から）



3トレンチ全景（東から）



3トレンチ土層堆積状況（南から）



埋め戻し状況（北から）

図版19 郡家町字地頭・字重元地区（1）

大手町地区

【丸亀城跡(大手町地区)】

第V章 大手町地区試掘調査

調査対象地	大手町二丁目1-34
調査期間	平成18年9月19日～9月21日
調査面積	132m ²

1. 立地と環境

丸亀城跡が位置する丸亀平野は、香川県において三豊平野・高松平野・志度平野と共に主な平野の一つである。この丸亀平野には現在西から弘田川・金倉川・土器川・大東川の4主要河川がある。善通寺市付近の弘田川と宇多津町付近の大東川によって挟まれる緩扇状地平野は、間に金倉川・土器川を有しており、それらの氾濫も併せた沖積作用によって形成されたものである。

丸亀城跡が位置するのは、その沖積平野ほぼ中央の土器川河口の西側である。

現在の丸亀城跡は丸亀市街地の中心に位置し、市街地北側には丸亀港、市街地東側には土器川が南北に流れており、土器川は旧高松藩との境界にもなっている。城下西側を南に行けば善通寺・金毘羅大権現に通ずる。市街地西側には金倉川が流れており、かつては旧多度津藩との境界であった。

丸亀城は、標高66mの亀山に築かれた総石垣の平山城である。築城は慶長2年(1597)、高松城主生駒親正によって始められたが、元和元年(1615)の一国一城令により廃城となった。寛永19年(1642)、山崎家治が西讃岐を領して入城して城を大改修し、現在の石垣の大半が築かれた。さらに万治元年(1658)、京極高和が播磨龍野から入り天守を完成させ、2代目高豊が城の全容を完成させた。

本遺跡は丸亀城の内濠と外濠の中間区域であり、文献史料によると城下町家老屋敷が所在していた区域として丸亀城跡のすぐ北側に位置する。

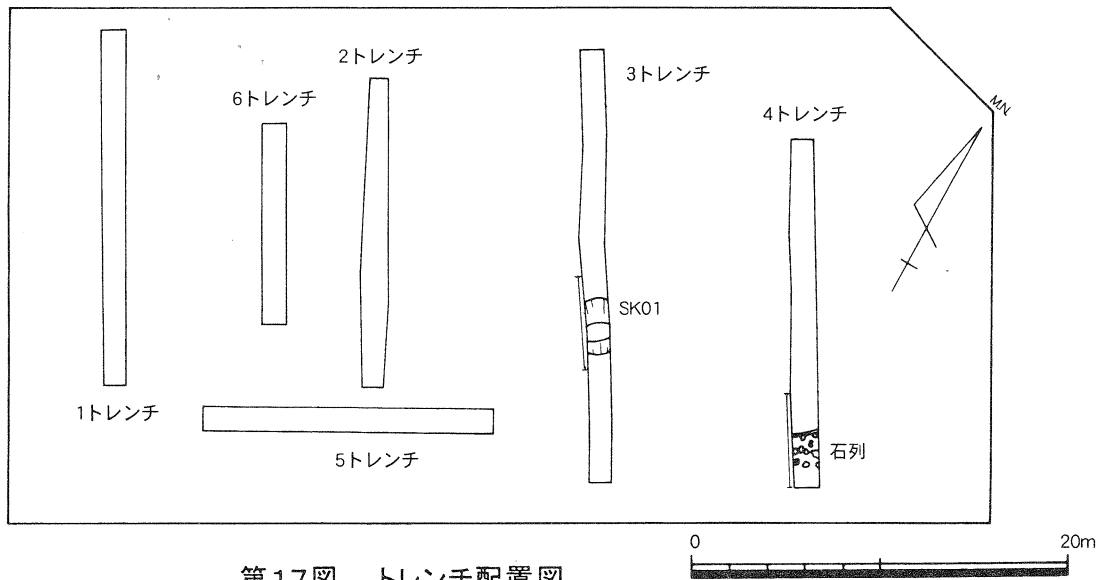
2. 調査に至る経緯

本事業は、丸亀市が実施する消防署建設事業に伴う事前確認調査として、丸亀市教育委員会が平成18年9月15日施行決定し、9月19日から3日間で試掘調査を実施した。

調査の結果を平成18年10月5日に回答し、県との協議の結果調査区全域を丸亀城跡(大手町地区)として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録された。

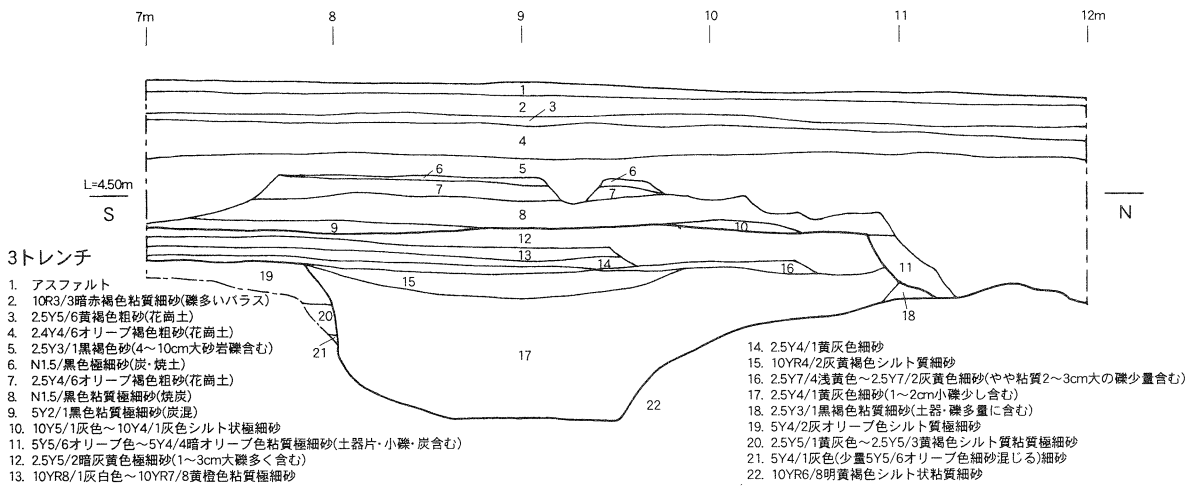


第16図 調査位置図



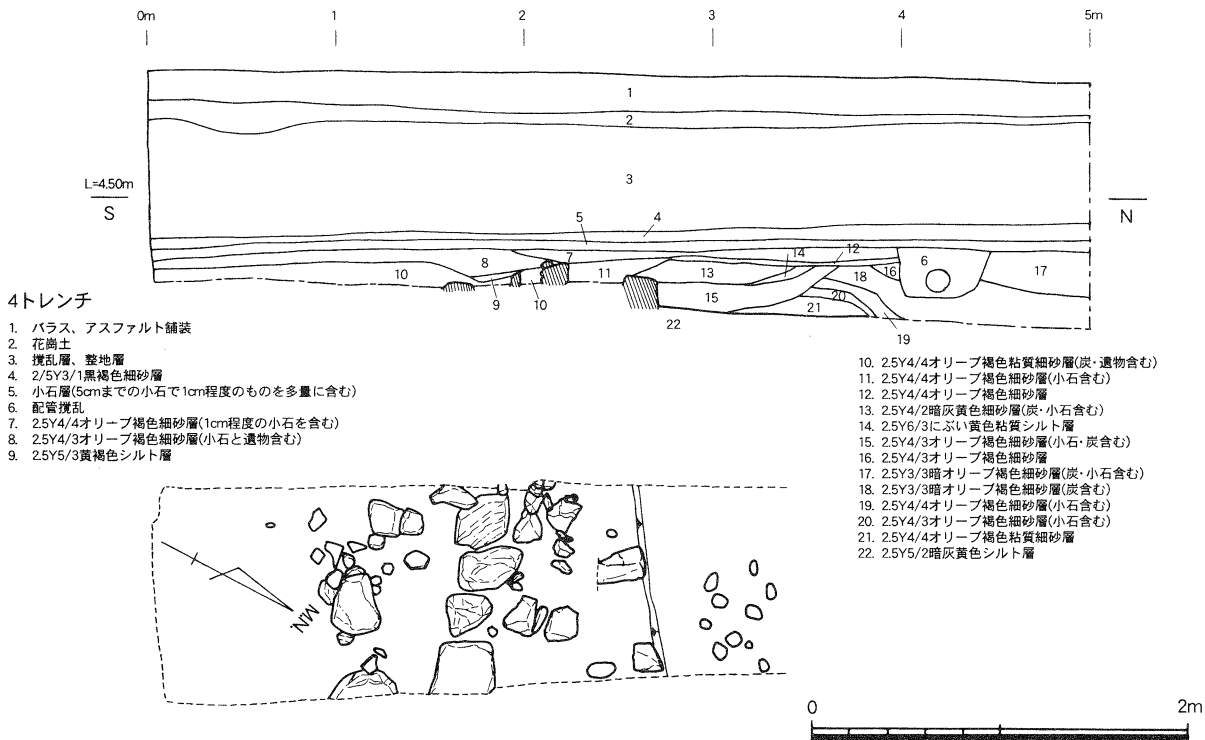
第17図 トレンチ配置図

3トレンチ南端から



第18図 3トレンチ西壁土層断面図

4トレンチ南端から



第20図 4トレンチ石列出土状況平面図

3. 調査の概要

調査地全域において建物建設が予定されているため、均等に試掘トレンチ6本を設定した。トレンチ幅にアスファルトを剥ぎ、重機により掘削し、トレンチ内は人力による精査の後写真撮影及び、図面作成を行った。

全トレンチにおいて現代の攪乱を受けていることから、図面上では近世の遺構のみを表現した。

1 トレンチでは、全体が攪乱に遭っているが、トレンチ南端から約4 mまでの区間では、地表から1.5 mの深さにおいて近世の整地層が0.5 m幅で残っていた。トレンチ北端から約4 mの区間においても、地表下1.1 m地点において近世の整地層が0.6 m幅で残っている。断面観察からは、一部で近世の包含層が確認でき陶磁器片が出土している。

2 トレンチでは、トレンチ全体に現代の暗渠排水路の掘削によって近世以前の遺構は毀損している。現代の暗渠排水路の底レベルでの標高は北端において約3.2 mを測り、2 トレンチの南側に設定した5 トレンチにおいても同様の暗渠排水路を検出し、底レベルにおいて約3.3 mであったことから現代の暗渠排水路は北側に向かって流れていたことがわかった。

3 トレンチでは、全体が攪乱に遭っているが、トレンチ中央部やや南側においてSK01を検出した。SK01からは多量の陶磁器片が出土している。この地点からトレンチ南端までは地表から約0.8 mのところにおいて近世の整地層が約0.2 m幅で残っていた。トレンチ北端にも整地層が残っているが、状況は不安定である。

4 トレンチは、南端から約10 mの区間において地表から約1.1 mの深さで整地層が広がっており、近世のものと考えられる石列を検出した。石列からは陶磁器片が出土している。トレンチ北側にも整地層が部分的に残っているが攪乱に遭っており状況は悪い。

5 トレンチは、東西方向に設定した。3 トレンチと同様な現代の暗渠排水路を検出し、南北に設定されたものであると確認できた。トレンチ東端から約10～14 mの区間において北壁断面の地表下約0.9 m地点で石列が確認できる。

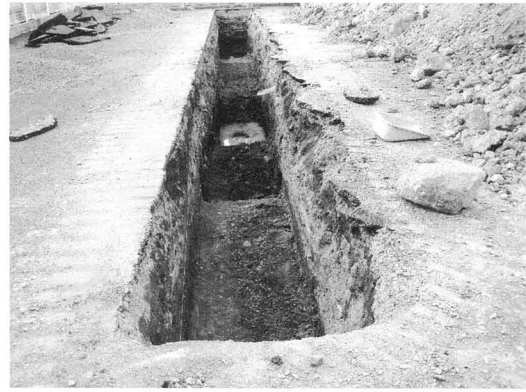
6 トレンチは、調査区の中で最も攪乱が著しく、トレンチ全体的に地表下約1.25 mのところまで毀損されていたので、簡易的なレベル測量に留めた。

4. まとめ

調査対象地は丸亀城北側の内濠と外濠の中間区域であり、文献史料からも城下町家老屋敷が所在していたことが明らかで、それに伴う遺跡の存在が想定できた。しかし、全体的に著しく攪乱を受けており、明確な近世の遺構面を確認することは出来なかった。調査区の北側と南側においては、若干近世の整地層が残り、3 トレンチでは土壌1基、4、5 トレンチにおいては石列を検出するなど、近世の遺物を伴う遺構を少なからず確認できた。よって今後の開発事業に対しては本発掘調査が必要であり、丸亀城内の遺跡解明の足がかりとなるものと考えられる。



1トレンチ重機掘削風景（北から）



1トレンチ全景（南から）



2トレンチ全景（南から）



3トレンチ全景（南から）



3トレンチ土層堆積状況（東から）



4トレンチ全景（北から）



4トレンチ石列（東から）

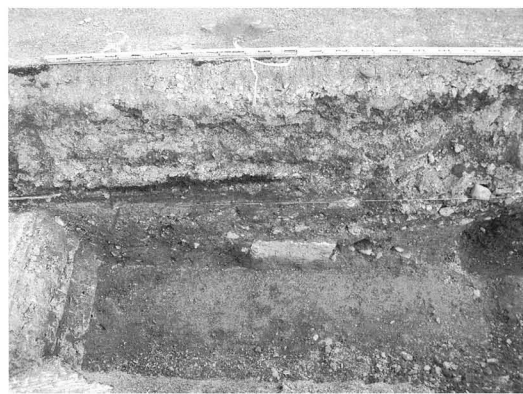


4トレンチ石列（南から）

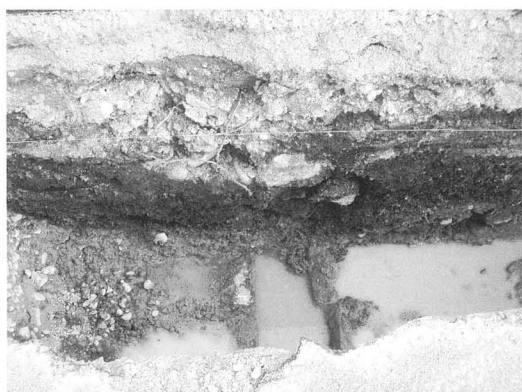
図版20 大手町地区（1）



5トレンチ全景（東から）



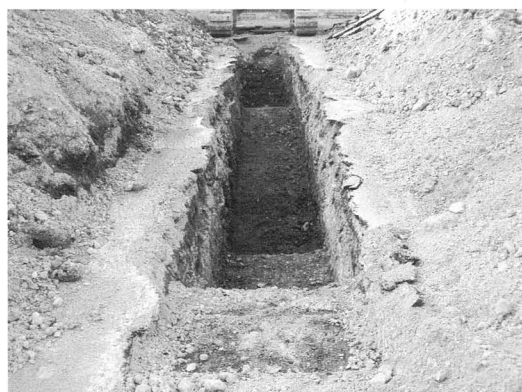
5トレンチ土層堆積状況（北から）



5トレンチ戦後の排水路（北から）



5トレンチ土層堆積状況（北から）



6トレンチ全景（南から）



埋め戻し状況（北東から）



包含層出土遺物



SK01出土遺物

図版21 大手町地区（2）

金倉町字道下地区

【道下遺跡】

第VI章 道下遺跡確認調査

A 地区	調査対象地	丸亀市金倉町字道下1626-1、1629-1
	調査期間	平成18年7月27日～7月28日
	調査面積	102㎡
B 地区	調査対象地	丸亀市金倉町字道下1946-1
	調査期間	平成18年9月13日
	調査面積	25㎡
C 地区	調査対象地	丸亀市金倉町字道下1430
	調査期間	平成18年10月24日
	調査面積	45㎡

1. 立地と環境

丸亀市金倉町字道下地区は海岸線より約2.7kmの内陸に位置する。金倉川と西汐入川の間にある緩扇状地、氾濫原である。天満池や瓢池を有する、条里制を残す水田地帯が広がる。

平成2年には、県道多度津丸亀線の建設に伴い道下遺跡の発掘が行われ、突帯文を持つ縄文晩期の土器や弥生土器が出土している。

また、7条の条里関連と思われる溝状遺構が判明した。

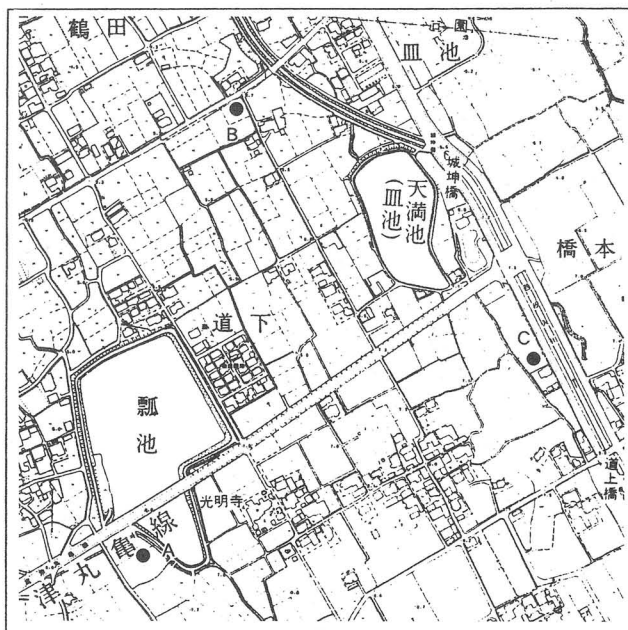
2. 調査に至る経緯

周知の埋蔵文化財包蔵地『道下遺跡』内で3件の開発事業が計画された。これらに対し、遺跡の保護を図るための資料がなかったことから、それぞれ確認調査を実施し、遺跡の残存状況を確認した。

A地区では、分譲住宅地の建設に伴い確認調査を実施した。当該地の北面及び東面には満濃池竜川幹線が通っている。瓢箪池南端の西側にあたる。

B地区では、共同住宅建設に伴い確認調査を実施した。当該地の東側には西汐入川が通っており左岸に位置する、やや微高地である。

C地区では、共同住宅建設に伴い確認調査を実施した。当該地の北東部には、整備された西汐入川が通っているが以前は若干ずれていたことが地図から読み取れる。



第21図 調査位置図

3. A地区調査の概要

工事計画地が2箇所に分かれており、北調査区と南調査区に分けてそれぞれの調査区に調査トレンチを設定した。北調査区には、1、2、3、4、5、10、11トレンチを、南調査区には、6、7、8、9トレンチをそれぞれ設定した。

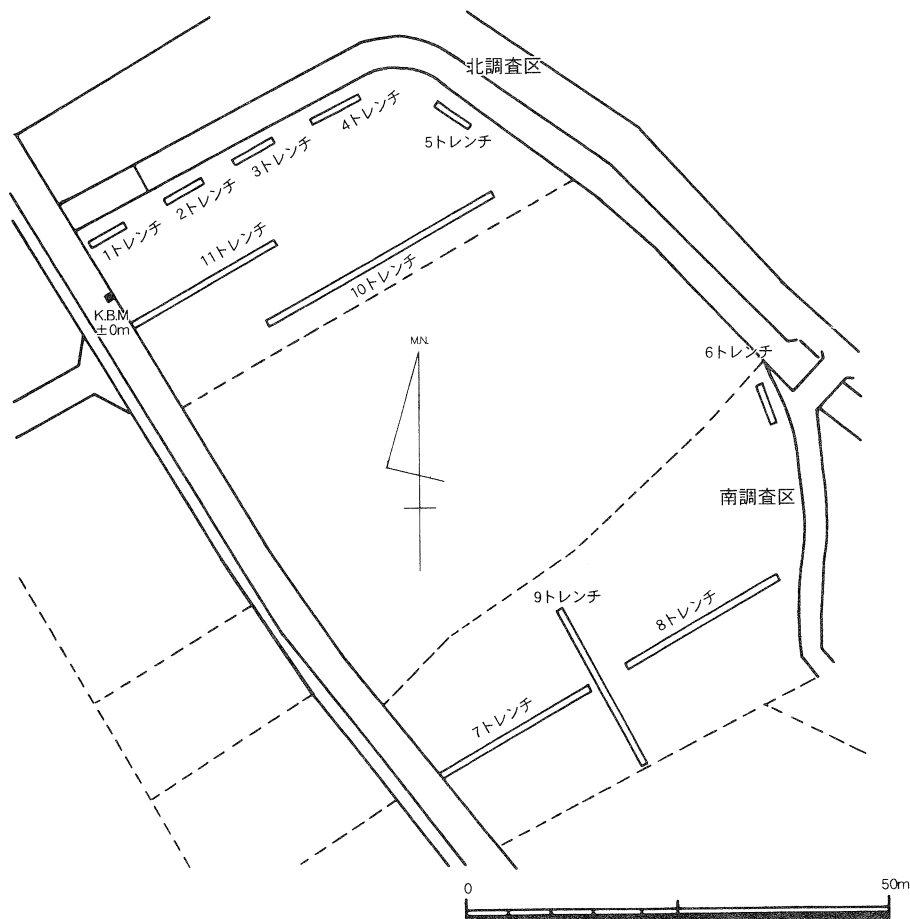
調査の結果、全ての調査区のトレンチに於いて遺物、遺構ともに検出されなかった。

各トレンチの土層序及び地形から検討すると、今回の調査区は南から北に向かって僅かに下り勾配の傾斜を持っており、さらに西から東への勾配で基盤層の堆積が認められる。また、3トレンチから5トレンチにかけて暗褐色～黒褐色のシルト細砂層が堆積する窪地が認められることから、旧来は東に隣接する瓢地へ流入する竜川と同方向に谷地形があったものと考えられる。

また、今回の調査で確認した土層は、ほぼ単一土層となっていることや粘土層及びシルト細砂層で構成されていることから、旧流域（金倉川）により形成されたものであり、人工的な整地土とは考えられない。更に、土中に土器、石器等の遺物も全く含まれていないことから当該地及び上流域での遺跡の展開は考え難い。

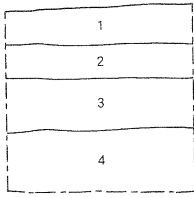
耕作土とベース層との中間層が見られないことから、当該地は、現在は水田として整備されているが、現地形が形成される以前は現在より地盤面が高く、切り下げによる造成がなされてきたものと考えられる。

10トレンチでは、3m前後の幅を持つ土層が複数認められる。土質がきめの細かい良質の粘土層となっており現在の土採り痕跡と考えられる。



第22図 A地区トレンチ配置図

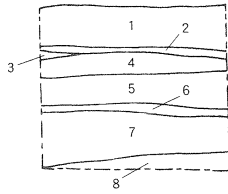
L=0.00m
W



1トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR7/4にぶい黄橙色シルト質細砂(マンガン含む)
3. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト質極細砂(マンガン含む)
4. 10YR6/4にぶい黄橙色～10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂

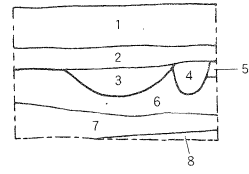
L=0.00m
W



2トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/2灰黄褐色シルト質細砂
3. 10YR6/1褐灰色～10YR6/3にぶい黄橙色シルト質細砂(マンガン少量含む)
4. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂(マンガン含む)
5. 10YR5/1褐灰色シルト質細砂(マンガン含む, 4より粘性強い)
6. 10YR7/3にぶい黄橙色シルト質細砂
7. 10YR7/4にぶい黄橙色シルト質細砂
8. 10YR5/2灰黄褐色粗砂(砂層)

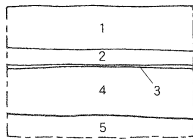
L=0.00m
W



3トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR7/1灰白色シルト質細砂
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質細砂
5. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂
6. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト質細砂(マンガン少量含む)
7. 10YR7/4にぶい黄橙色シルト質細砂
8. 10YR5/2灰黄褐色粗砂(砂層)

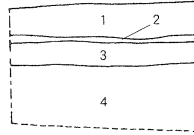
L=0.00m
W



4トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y8/6黄色シルト質細砂
3. 10YR7/1灰白色シルト質細砂
4. 10YR3/1黒褐色～10YR4/1褐灰色シルト質細砂
5. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト質細砂

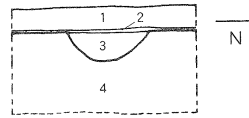
L=0.00m
S



5トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y7/6明黄褐色シルト質細砂
3. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂
4. 10YR6/2灰黄褐色シルト質細砂

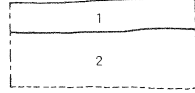
L=0.00m
S



6トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y7/8黄色シルト質粗砂
3. 10YR3/1黒褐色シルト質極細砂
4. 10YR6/1褐灰色～10YR7/6明黄褐色シルト質極細砂

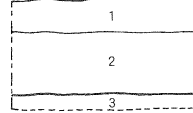
L=0.00m
E



7トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/1褐灰色～10YR6/6明黄褐色シルト質極細砂(マンガン含む)

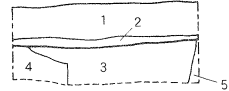
L=0.00m
N



9トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR5/1褐灰色～10YR5/6黄褐色シルト質細砂(マンガン含む)
3. 10YR4/1褐灰色粗砂(砂層)

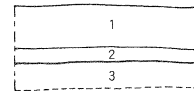
L=0.00m
W



10トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/1褐灰色～10YR6/6明黄褐色シルト質細砂
3. 10YR4/1褐灰色に10YR6/6明黄褐色混じるシルト質細砂
4. 10YR6/1褐灰色に10YR7/6明黄褐色混じる粘土
5. 10YR5/1褐灰色～10YR6/6明黄褐色シルト質細砂～極細砂

L=0.00m
E

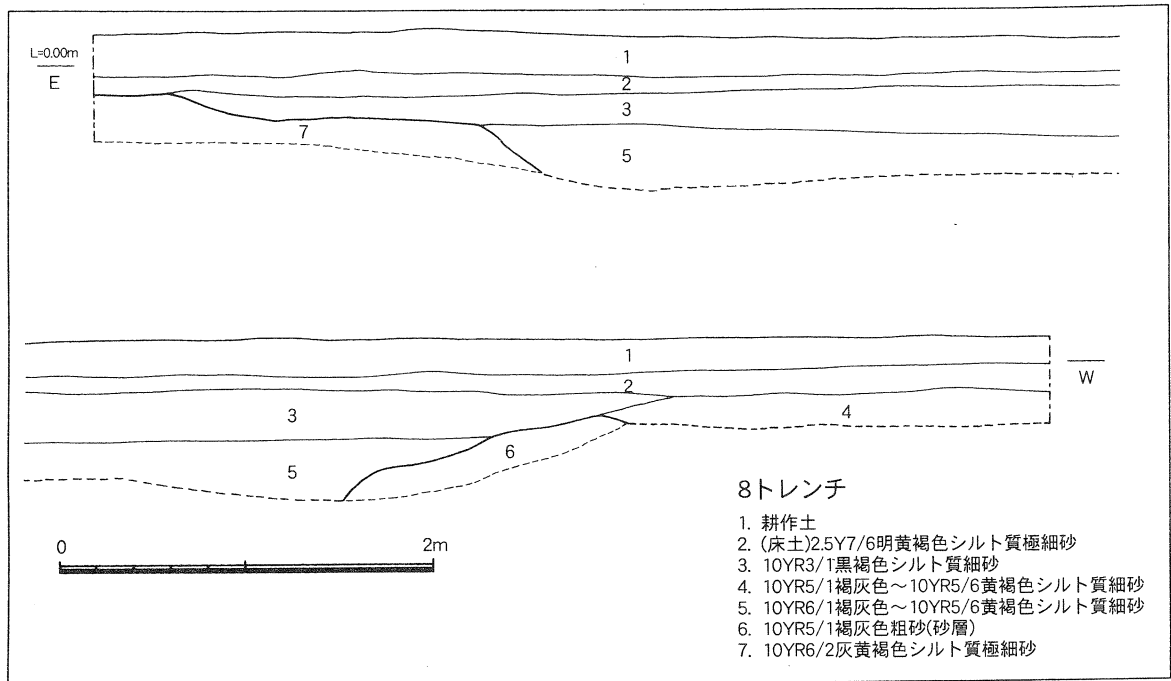


11トレンチ

1. 耕作土
2. (耕作土)10YR6/3にぶい黄橙色シルト質細砂
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト質極細砂



第 23 図 トレンチ土層断面図



第24図 8トレンチ北壁土層断面図

4. まとめ

調査区及びその周辺は、周知の埋蔵文化財包蔵地とされている区域であるが、今回の確認調査によって関連する遺構や遺物は全く検出することができなかった。

調査によって、調査区域には旧来南北軸の谷地形が通っていたことが認められる。堆積土中にも遺物が全く含まれていないことや当該地が金倉川流域に属すること、また周辺地域から推察すると、付近には南北軸で手指状に微高地と谷地形が連続していたことが考えられる。また、その単位は比較的密であることから遺構の展開するような安定した区画が確保できなかったものと考えられる。

以上のことから、当該地には遺跡の展開は非常に考え難い。また、それは後世の土地改変等によるものではなく、元々所在していなかったものと考えられる。



北調査区調査前風景（東から）



南調査区調査前風景（南東から）



1トレンチ全景（西から）



1トレンチ土層堆積状況（南から）



2トレンチ全景（西から）



2トレンチ土層堆積状況（南から）



3トレンチ全景（東から）

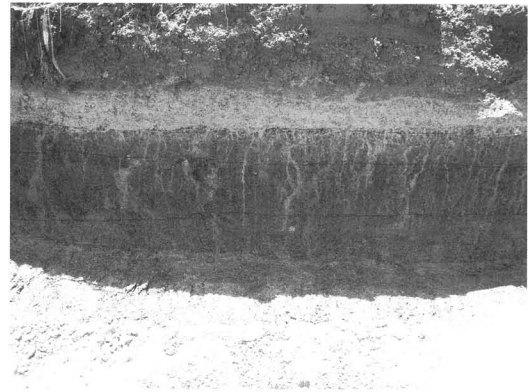


3トレンチ土層堆積状況（南から）

図版22 道下遺跡A地区（1）



4トレンチ全景（西から）



4トレンチ土層堆積状況（南から）



5トレンチ全景（西から）



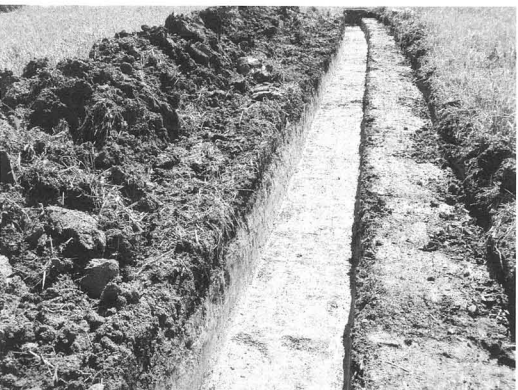
5トレンチ土層堆積状況（南から）



6トレンチ全景（南から）



6トレンチ土層堆積状況（東から）



7トレンチ全景（西から）



7トレンチ土層堆積状況（南から）

図版23 道下遺跡A地区（2）



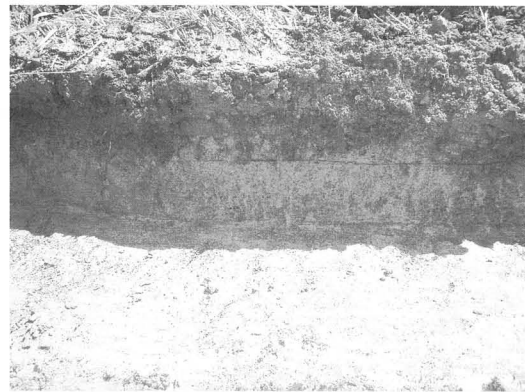
8トレンチ全景 (西から)



8トレンチ土層堆積状況 (南から)



9トレンチ全景 (南から)



9トレンチ土層堆積状況 (西から)



10トレンチ全景 (東から)



10トレンチ土層堆積状況 (南から)



11トレンチ全景 (東から)



11トレンチ土層堆積状況 (南から)



重機掘削風景（西から）



1~4トレンチ埋め戻し状況（東から）



5トレンチ埋め戻し状況（南から）



7トレンチ埋め戻し状況（西から）



11トレンチ埋め戻し状況（西から）

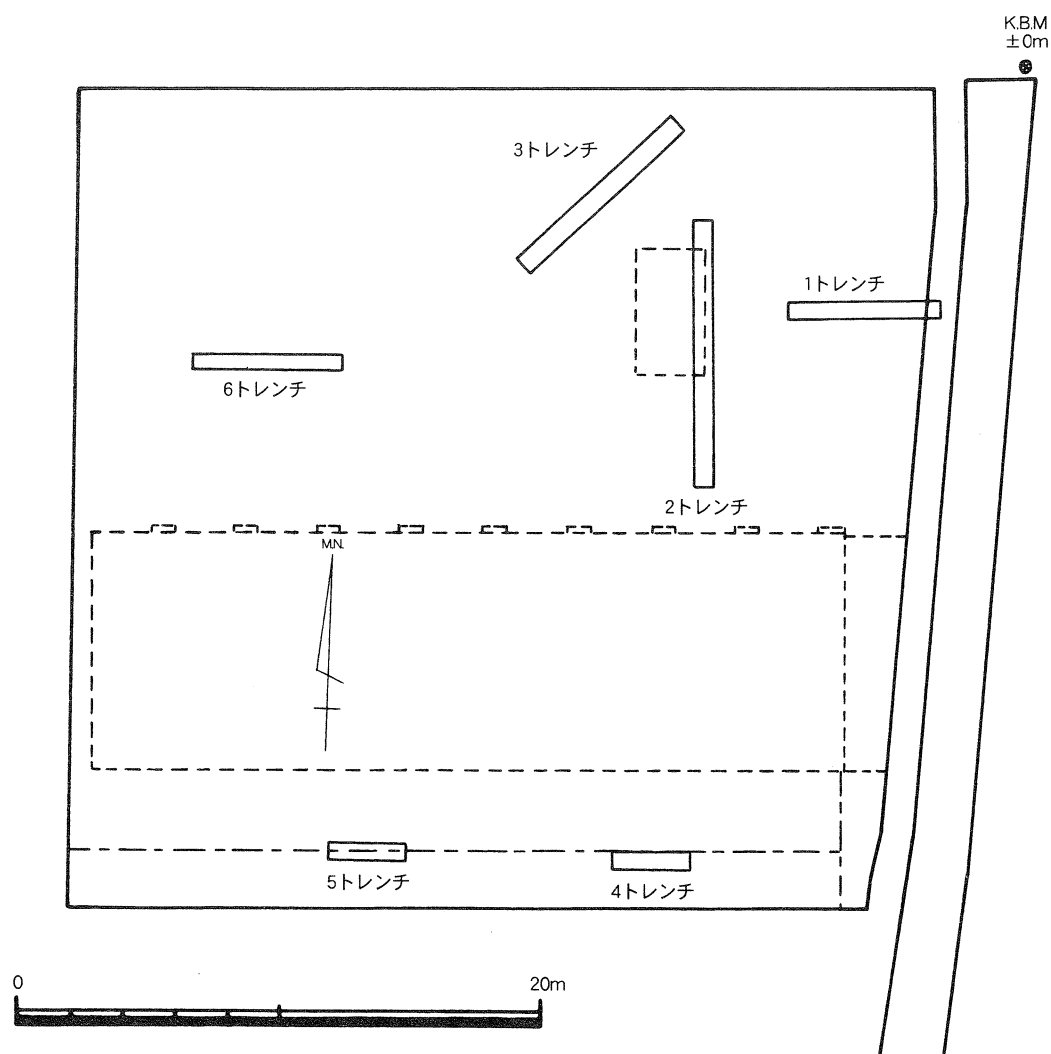
図版25 道下遺跡A地区（4）

5. B地区調査の概要

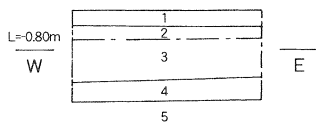
試掘トレンチは、工事関係者との協議のもと、建物敷地部分をはずして実施することとした。建物部分は、調査区の中央より南よりではほぼ東西幅一杯で計画されていることから、北の駐車場上、浄化槽用地で1、2、3、6トレンチを、南端の擁壁設置用地で4、5トレンチを設定した。

調査の結果、全てのトレンチで確実な遺構は確認できなかった。また、後世の攪乱層、整地土層以外では土器片等の出土もなかった。

掘削深度の足りなかった1トレンチ以外の全てで一般的に流路堆積層とされる粗砂層や粘土層の堆積が見られることから全域が旧流路域と考えられる。旧河川本線は当初の想定通りの北東隅付近にあったと考えられる。また、その他の箇所は、河川増水時等の氾濫域として考えることができる。

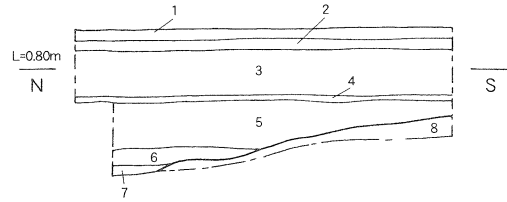


第25図 B地区トレンチ配置図



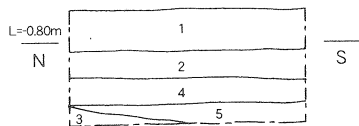
1トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/6明黄褐色粘質シルト細砂
3. 7.5Y5/1褐灰色粘質シルト細砂(マンガン粒を含む)
4. 2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルト細砂
5. 2.5Y7/4浅黄色粘質シルト細砂(4より砂質が強く、5cm大の石を含む)



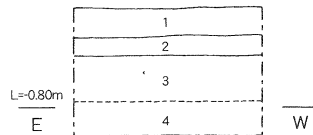
2トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/6明黄褐色粘質シルト細砂
3. 7.5Y5/1褐灰色粘質シルト細砂(マンガン粒を含む)
4. 2.5Y7/8黄色粘質極細砂(古・中世ベース)
5. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト細砂
6. 10YR5/1褐灰色粘質シルト細砂(マンガン含む)
7. 10YR5/1褐灰色+7.5Y3/4暗褐色まじりシルト細砂(6より砂粒が粗い)
8. 10YR6/8明黄褐色粘質土(ベース)



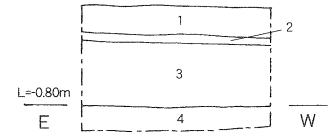
3トレンチ

1. 7.5Y5/1褐灰色粘質シルト細砂(マンガン粒を含む)
2. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト細砂
3. 2.5Y7/2灰黄色粘質シルト細砂
4. 10YR5/1褐灰色+10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト細砂
5. 10YR4/1褐灰色+10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト細砂



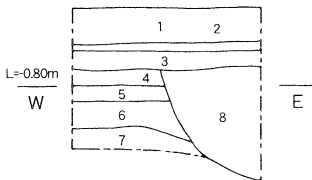
4トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/6明黄褐色粘質シルト細砂
3. 10YR5/1褐灰色砂質土
4. 10YR5/1褐灰色砂質土(10YR2/1黒色ブロック混じり)
(3~5cm大の礫を含み、水が濁く)



5トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/6明黄褐色粘質シルト細砂
3. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト細砂
4. 10YR5/1褐灰色砂質土



6トレンチ

1. 耕作土
2. 10YR6/6明黄褐色粘質シルト細砂
3. 7.5Y5/1褐灰色粘質シルト細砂(マンガン粒を含む)
4. 7.5Y5/1褐灰色粘質シルト細砂
5. 10YR5/1褐灰色+10YR5/4にぶい黄褐色混じりシルト細砂(マンガン含む)
6. 10YR4/1褐灰色粘質シルト細砂
7. 2.5Y7/6明黄褐色シルト細砂
8. 10YR5/1褐灰色~10YR4/1褐灰色混じり(1~3mmの砂粒を含み、地山のブロック混じり)



第26図 トレンチ土層断面図

6. まとめ

調査区及びその周辺は、周知の埋蔵文化財包蔵地『道下遺跡』と指定されている区域であるが、今回の確認調査によって関連する遺構や遺物は全く検出することができなかった。

調査によって、調査区域の北東部を通り東側から北側にかけて旧河川が通っていたことが予想される。今回の調査からもこれを裏図付ける資料が得られたと考える。旧河川は、かなり蛇行しており増水時には大規模に氾濫していたことは明白であり、今回の調査でもこれに関する資料が得られた。

これらの結果から検討すると、当該地には遺跡の展開することは非常に想定し難い。

また、流路内の堆積土にも遺物が含まれないことから、近接地にも遺構の展開は無い可能性が強い。



調査前風景（東から）



重機掘削風景（北から）



1トレンチ全景（南東から）



2トレンチ旧河川検出状況（北から）



2トレンチ土層堆積状況（西から）



3トレンチ土層堆積状況（北西から）

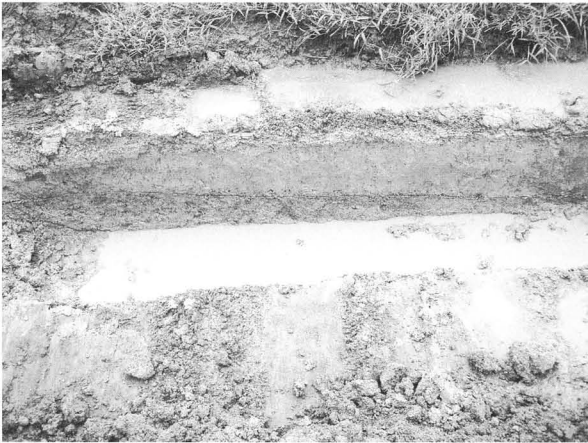
図版26 道下遺跡B地区（1）



3トレンチ全景（北から）



4トレンチ土層堆積状況（北から）



5トレンチ土層堆積状況（北から）



6トレンチ全景（南東から）



6トレンチ土層堆積状況（南から）



埋め戻し風景（北東から）

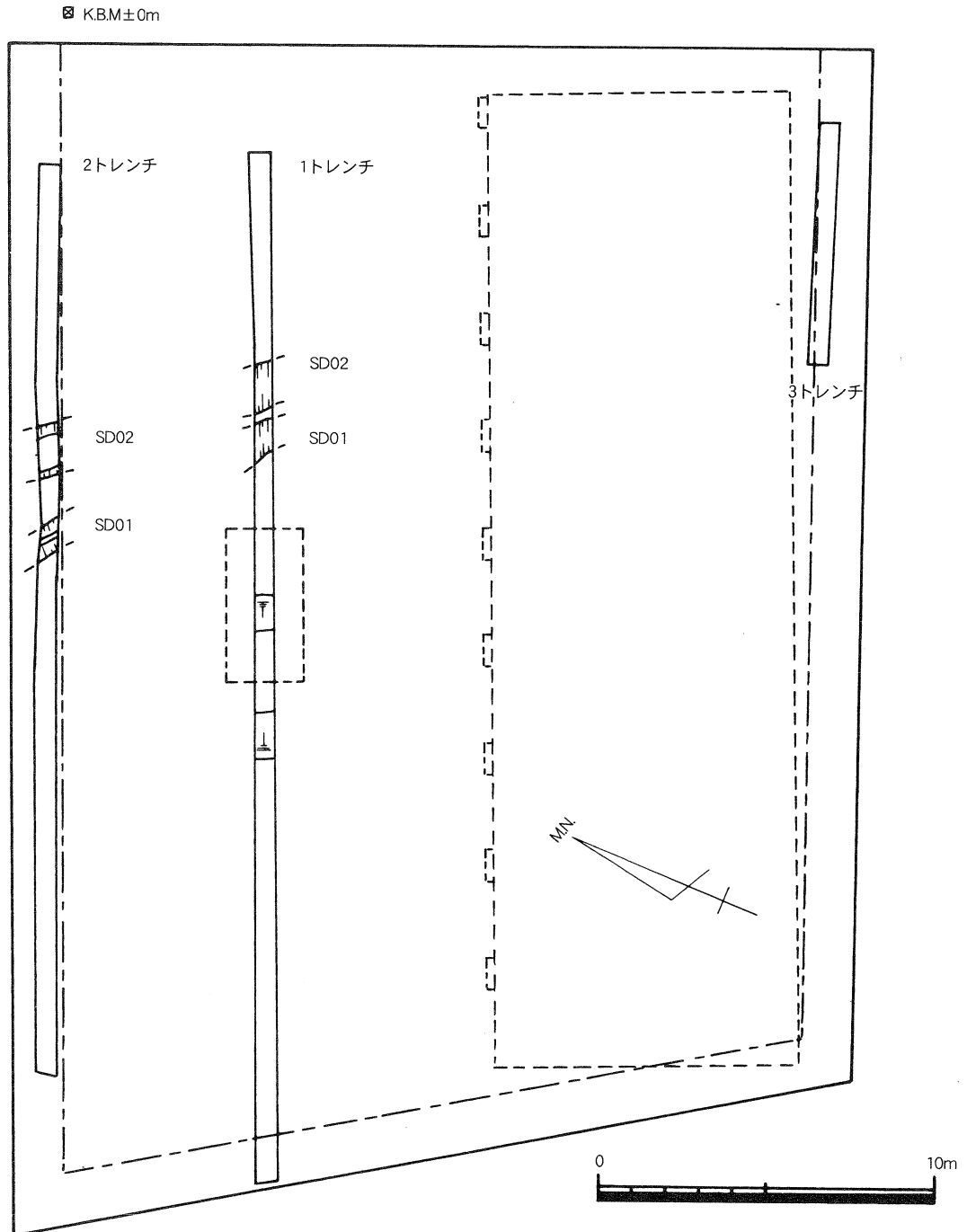
図版27 道下遺跡B地区（2）

7. C地区調査の概要

試掘トレンチは、浄化槽設置に伴い掘り込まれる部分を中心に1トレンチを設定した。

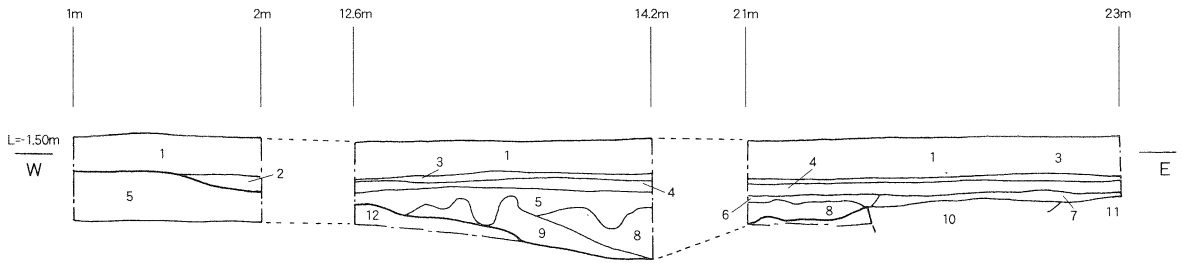
また、溝の検出により擁壁設置用地において2、3トレンチも設定した。トレンチは全て現在の地割りに沿った東西方向で設定した。

調査の結果、1トレンチにおいて溝の切り合いを検出した。浄化槽用地からは外れていたため遺構検出面で留めた。2トレンチでは、1トレンチから延長した溝2条が確認できた。擁壁により掘り込まれるので遺構を掘削したが出土遺物はなかった。3トレンチにおいては遺構、遺物ともに確認できなかった。当該地は全てのトレンチで後世の農地造成による整地痕跡が何層かにわたり確認できた。今回検出した溝が当時の生活に関わるものであったかは不明である。また、農業遺構に関連する遺構である可能性も考えられる。



第27図 C地区トレンチ配置図

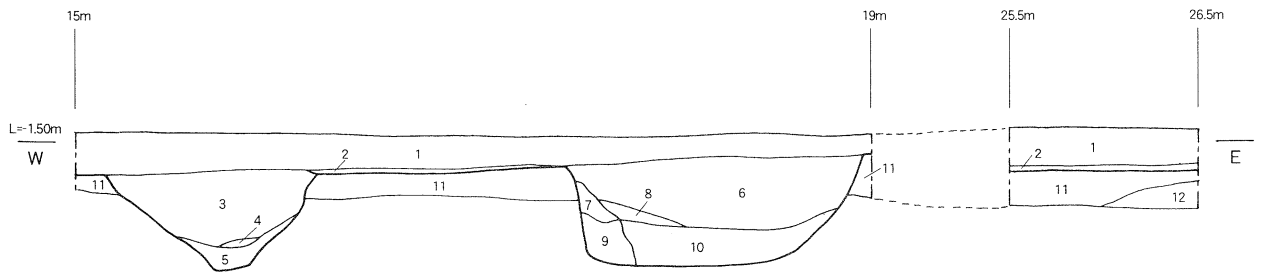
調査地西端より



1トレンチ

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. 耕作土 | 7. 10YR4/6褐色粘質土 |
| 2. 5Y5/2灰オリーブ色粘質土+7.5YR5/6明褐色粘砂質土 | 8. 5Y6/2灰オリーブ粘土+10YR5/6黄褐色粘質土ブロック状に含む |
| 3. 7.5YR5/6明褐色粘砂質土 | 9. 5Y6/1灰色粘細砂質土(マンガン含む) |
| 4. 5Y6/2灰オリーブ粘細砂質土 | 10. 2.5Y4/1黄灰色シルト質土 |
| 5. 5Y6/2灰オリーブ粘質土 | 11. 10YR5/1楊灰色シルト質土 |
| 6. 2.5Y6/2灰黄色極細砂質土 | 12. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土+7.5Y8/1灰白色粘質土ブロック状に含む |

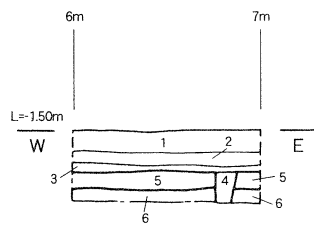
調査地西端より



2トレンチ

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 耕作土 | 7. 5Y8/1灰白色粘細砂質土 |
| 2. 10YR7/6明黄褐色粘質土 | 8. 5Y5/1灰色粘細砂質土 |
| 3. 2.5YR4/1黄灰色粘砂質土 | 9. 5Y3/1オリーブ黒色粘質土 |
| 4. 2.5Y4/2暗灰黄色粘砂質土 | 10. 2.5Y3/1黒褐色粘砂質土 |
| 5. 2.5Y3/1黒褐色粘砂質土 | 11. 10YR7/8黄褐色粘質土+2.5Y6/2灰黄色粘質土ブロック状に含む |
| 6. 5Y4/1灰色粘砂質土 | 12. 10YR6/6明黄褐色粘質土+2.5Y6/1灰黄色粘質土ブロック状に含む |

トレンチ東端より



3トレンチ

- | |
|-------------------------|
| 1. 耕作土 |
| 2. 10YR5/3にふい黄褐色シルト質細砂 |
| 3. 床土 |
| 4. 2.5Y7/2灰黄色粘質シルト |
| 5. 2.5Y7/8黄色粘質シルト |
| 6. 2.5Y8/8黄色シルト質細砂(ベース) |



第28図 トレンチ土層断面図

8. まとめ

今回の調査の北約100mのところにおいて平成17年度に発掘調査が行われているが、遺構、遺物ともに確認できていない。今回の調査地から北に向かうに連れ、遺跡は終焉を迎えるものと考えられ、遺跡の中心部は今回の調査地より南にかけて広がっていく可能性があるものと考えられる。



調査前風景（北から）



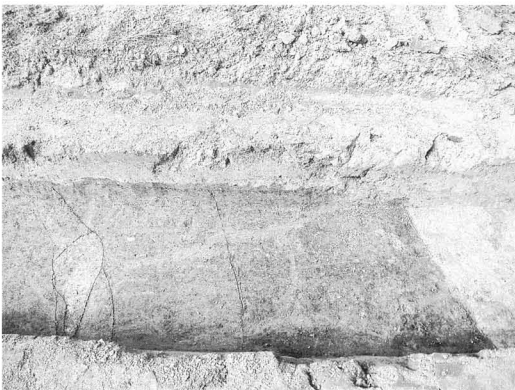
重機掘削風景（西から）



1トレンチ全景（西から）



1トレンチ遺構検出状況（東から）



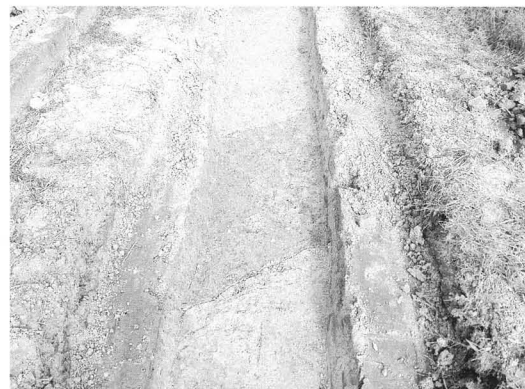
1トレンチSD02検出状況（南から）



1トレンチ中央部土層堆積状況（南から）



2トレンチ全景（西から）

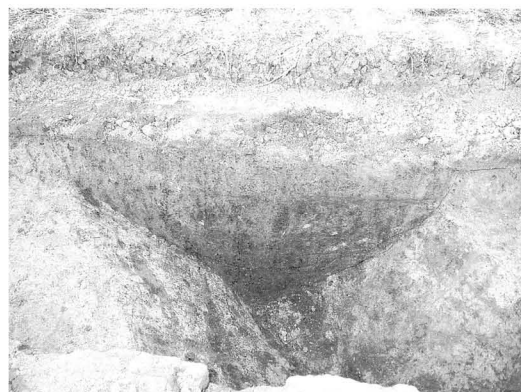


2トレンチSD01検出状況（西から）

図版28 道下遺跡C地区（1）



2トレンチSD01土層堆積状況（南から）



2トレンチSD01完掘状況（南から）



2トレンチSD02・03検出状況（南から）



2トレンチSD02・03完掘状況（南から）



3トレンチ全景（西から）



3トレンチ土層堆積状況（南から）



埋め戻し風景（西から）



埋め戻し状況（西から）

図版29 道下遺跡C地区（2）

第Ⅶ章 まとめ

丸亀市では、旧丸亀市では平成4年度から、旧綾歌町では平成8年度から国庫及び県費補助を受けて丸亀市内遺跡発掘調査事業及び綾歌町内遺跡発掘調査事業を実施してきた。

去る、平成17年3月22日に旧丸亀市、綾歌町、飯山町が合併し、新しい丸亀市として発足した。当該事業については、昨年度から新しい丸亀市として継続して実施している。数年前から県費補助の配分はなくなったが、財政の厳しい丸亀市にとっては国庫補助を受けることが当該事業を進めるために有効であると判断することから継続実施としているものである。

今年度の調査については、山北町字原窪地区、飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区で商業施設建設に伴う試掘調査を3件、大手町地区及び郡家町字地頭・字重元地区で公共施設建設に伴う試掘調査を2件、金倉町字道下地区で住宅地開発に伴う確認調査を3件の併せて8件を対象として実施した。

山北町字原窪地区では、当該地付近に中世城館跡や旧街道が所在することから、関連する遺跡の所在が想定されたために実施したものである。

調査の結果、溝遺構やピットなどの検出はあったものの、密度が非常に希薄であったことや時代や遺構内容の決定に至る資料が得られないことから埋蔵文化財包蔵地としての取り扱いはしないことになった。

飯山町西坂元字内板・飯野町東二字中代地区では、ほど近い位置に飯野山西麓遺跡や飯野山西麓古墳群などが所在することから検討した結果、遺跡の所在する可能性が高いという結論になったことから試掘調査を実施した。

調査の結果、調査対象地の西半部で溝遺構やピットが比較的集中して検出された。東半部は、旧来は低地であったことが確認でき遺構の所在は無いことが分かった。この成果を基に、遺構の分布する範囲が西坂元内板遺跡として認定された。

大手町地区では、当該地にかつて丸亀城下家老屋敷が所在していたとされることから試掘調査を実施した。

調査の結果、後世の開発等によってかなりの影響を受けてはいるが、近世の石組み列等を検出することができた。協議の結果、当該地は丸亀城跡（大手町地区）として認定されることになった。

郡家町字地頭・字重元地区では、郡家町内で未だ郡衙遺構の確認ができていないことから、試掘調査を実施したものである。

調査の結果、調査範囲が狭かったこともあり、埋蔵文化財に関する資料を得ることはできなかった。

金倉町道下地区は、ほぼ全域が道下遺跡として周知の埋蔵文化財の包蔵地に指定されているもののその詳細についてはほとんど確認されていない。遺跡内で計画される開発に対応するために、特に内容の不明な箇所については、事前に調査を実施して状況を確認しておく必要がある。

今回の件は、道下遺跡の区域内において計画された開発に伴って確認調査を実施したものである。

調査の結果、道下遺跡の西部に位置する調査区と北端に位置する調査区では、埋蔵文化財を確認することはできなかった。しかし、遺跡の南東隅に位置する調査区では溝遺構を2条検出した。遺物を伴わないことから時期決定には至らなかったが、周辺の遺跡状況から弥生時代のものと考えられる。

今年度については、当該事業によって上記8件の調査を実施した。それにより、新たに2遺跡を発見することができた。また、道下遺跡の包蔵地内においても状況確認資料を整えることができた。

当該事業については、次年度以降についても継続して実施し、丸亀市内遺跡の適切な保護に努めていきたい。

参考文献

『新編丸亀市史』丸亀市 1995

『飯山町誌』飯山町 1988

『県道多度津丸亀線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 道下遺跡』宮崎哲治 1991

『丸亀城内遺構等埋蔵文化財報告書』都築健 1991

『史跡丸亀城跡保存整備基本計画』丸亀市教育委員会 1997

報告書抄録

ふりがな	まるがめしないいせき はっくつちようさ ほうこくしょ							
書名	丸亀市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	平成18年度国庫補助事業報告書							
巻次	2007. 3	シリーズ名	丸亀市内遺跡発掘調査報告書	シリーズ番号	第2集			
編集者名	丸亀市教育委員会 文化部 文化課 近藤 武司							
編集機関	丸亀市教育委員会							
所在地	〒763-0034 香川県丸亀市大手町二丁目1番20号 Tel0877-24-8822							
発行年月日	2007年 3月30日							
頁数	例言・目次等	本文	挿図	表	図版	総頁		
	11頁	67頁	136点	3枚	241点	78頁		
ふりがな 所収遺跡・地区名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまきたちようあざはらくぼちく 山北町字原窪地区 1次A地区、B地区	山北町字原窪	37202		34度 16分 8~10秒	133度 47分56秒 ~48分9秒	4.17 ~ 4.19	114.5	商業施設建設
やまきたちようあざはらくぼちく 山北町字原窪地区 2次C地区	山北町字原窪	37202		34度 16分 4~11秒	133度 48分 2~7秒	6.27 ~ 6.29	143	商業施設建設
はんざんちようにしきかもとあざうちいた 飯山町西坂元字内板 いいのちようひがしふたあざなかだいちく 飯野町東二字中代地区 にしきかもとうちいたいせき 【西坂元内板遺跡】	飯山町西坂元 字内板 飯野町東二 字中代	37202	00087	34度 15分 50~55秒	133度 50分 16~20秒	4.24 ~ 4.28	219	商業施設建設
ぐんげちようあざじとう あざしげもとちく 郡家町字地頭・字重本地区	郡家町字地頭 字重元	37202		34度 15分 4~5秒	133度 48分 54~55秒	6.5	15.4	公共施設建設
おおてちようちく 大手町地区 まるがめじようあと おおてちようちく 【丸亀城跡(大手町地区)】	大手町	37202	00137	34度 17分 20~21秒	133度 47分 58~59秒	9.19 ~ 9.21	132	公共施設建設
みちしたいせき 道下遺跡A地区 みちしたいせき 【道下遺跡】	金倉町字道下	37202	00079	34度 16分 29~30秒	133度 46分 46~48秒	7.27 ~ 7.28	102	分譲宅地造成
みちしたいせき 道下遺跡B地区 みちしたいせき 【道下遺跡】	金倉町字道下	37202	00079	34度 16分 19~20秒	133度 47分 2~4秒	9.13	25	共同住宅建設
みちしたいせき 道下遺跡C地区 みちしたいせき 【道下遺跡】	金倉町字道下	37202	00079	34度 16分 9~12秒	133度 46分 41~44秒	10.24	45	共同住宅建設

所収遺跡・地区名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
やまきたちようあざはらくぼちく 山北町字原程地区 1次A地区、B地区			溝、ピット	土師器、須恵器、陶磁器	
やまきたちようあざはらくぼちく 山北町字原程地区 2次C地区			溝	検出無し	
はんざんちようにしきかもとあざうちいた 飯山町西坂元字内板 いいのちようひがしふたあざなかだいらく 飯野町東二字中代地区 にしきかもとうちいたいせき 【西坂元内板遺跡】	集落跡	弥生・古墳・ 中世	溝、ピット、土壇	土師器、須恵器、石器、陶磁器、弥生土器	
くんげちようあざじとう あざしげもとちく 郡家町字地頭・字重本地区			検出無し	検出無し	
おおてちようちく 大手町地区 まるがめじようあと おおてちようちく 【丸亀城跡(大手町地区)】	城館跡	近世	石列、土壇	瓦、陶磁器	
みちしたいせき 道下遺跡A地区 みちしたいせき 【道下遺跡】	集落跡	不明	検出無し	検出無し	周知の包蔵地
みちしたいせき 道下遺跡B地区 みちしたいせき 【道下遺跡】	集落跡	不明	検出無し	検出無し	周知の包蔵地
みちしたいせき 道下遺跡C地区 みちしたいせき 【道下遺跡】	集落跡	不明	溝	検出無し	周知の包蔵地

平成18年度国庫補助事業報告書

丸亀市内遺跡発掘調査報告書

平成19年3月30日

編集・発行 丸亀市教育委員会

丸亀市大手町2丁目1番20号

電話(0877)24-8822

印刷 四国工業写真株式会社